

そら 宇宙から見た水のふるさと

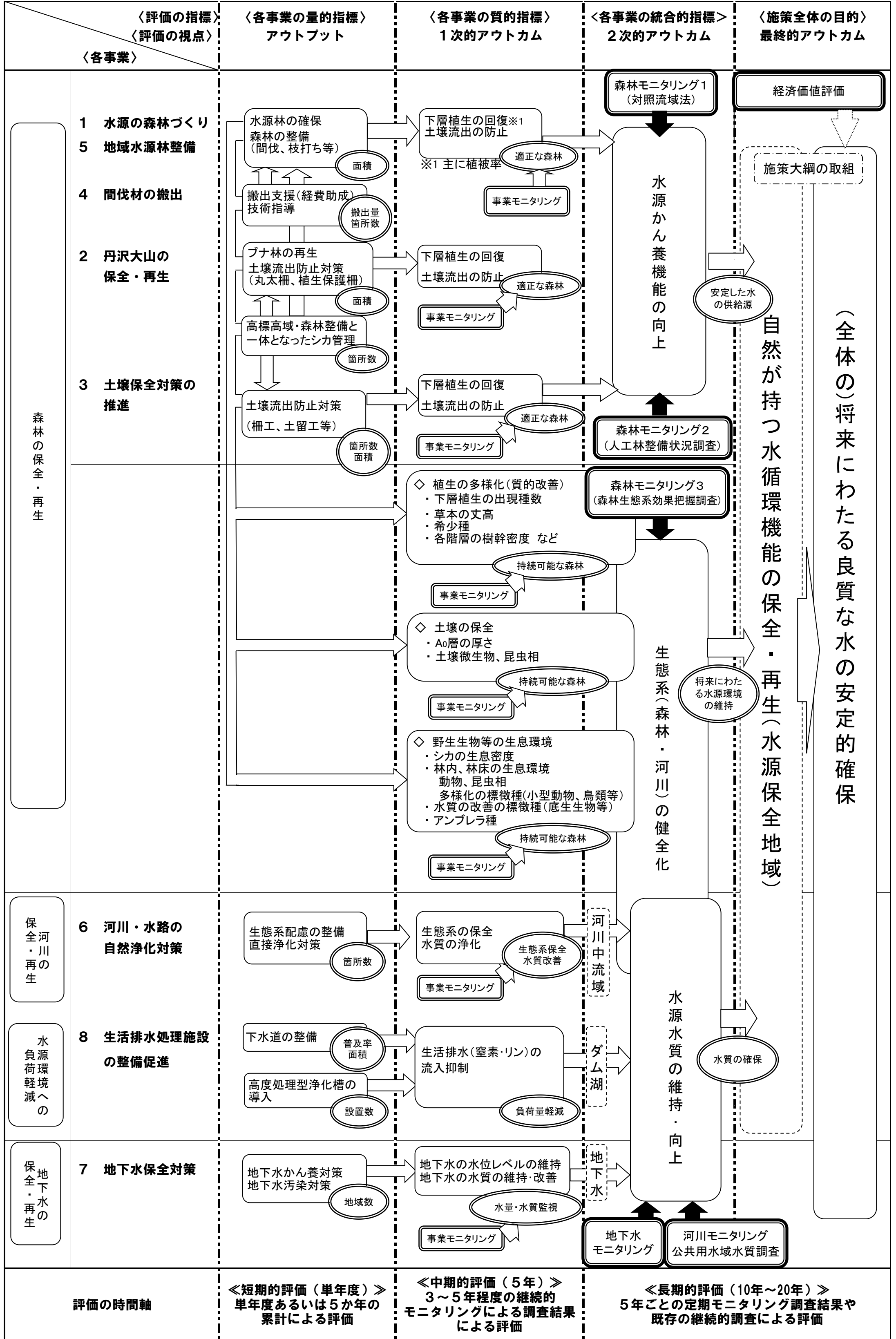
～ 900万人の暮らしを支える、相模川と酒匂川～

富士山や丹沢の森に降った雨は、相模川（桂川）や酒匂川となって、相模湾へと流れていきます。900万人を超える人々が暮らす神奈川県で、私たちが使っている水の9割が、相模川と酒匂川でまかなわれています。森は水のふるさと。かながわの森と水を守るための取組をご紹介します。



【凡例】
県（都）界 ————
相模川水系の流域界 ————
酒匂川水系の流域界 - - - - -

各事業の評価の流れ図（構造図）



6 評価資料

(1) 水源環境保全・再生施策の効果を示す指標等

指標①

植被率が高い（40%以上）森林の割合

(1) 指標の意味（意義、目的等）

森林土壌における雨水浸透機能の良好さを意味する。

下層植生の植被率が高いと雨水が土壌に浸透し地表流がほとんど発生しないため、水源かん養機能の発揮が見込まれる。また、地表流が発生しないため土壌も保全され、森林

(2) 中間評価報告書で使用した指標については、本編と整理したうえで、説明資料を記載する。
(12ページ程度)

以上（レベ

【レベ



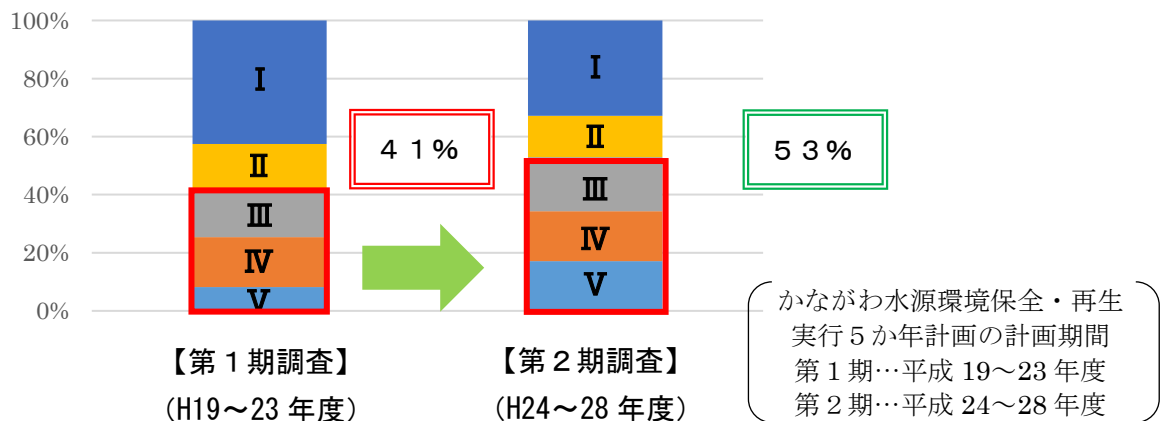
高

(3) 対象エリア（地域）

水源の森林エリア内の特別対策事業実施箇所

[134 地点（人工林 38 地点、自然林 96 地点）]

(4) 評価データ



植被率が40%以上であると雨水が土壌に浸透し土壌が保全され、水源かん養機能発揮（2次的アウトカム）にも概ね支障が無いと整理できる。植被率の変化には、事業による人工林の手入れの進捗（指標②）やシカ生息状況の変化（参考情報A）が影響し、ダム上流域の水源かん養機能（参考情報B）につながるため、各指標を関連付けて捉える必要がある。

② 河川モニタリング

森林モニタリング結果については、作成中。

【調査

河川モニタリングは、中間評価報告書と時点が変わらないため、同内容となる予定。

①

②

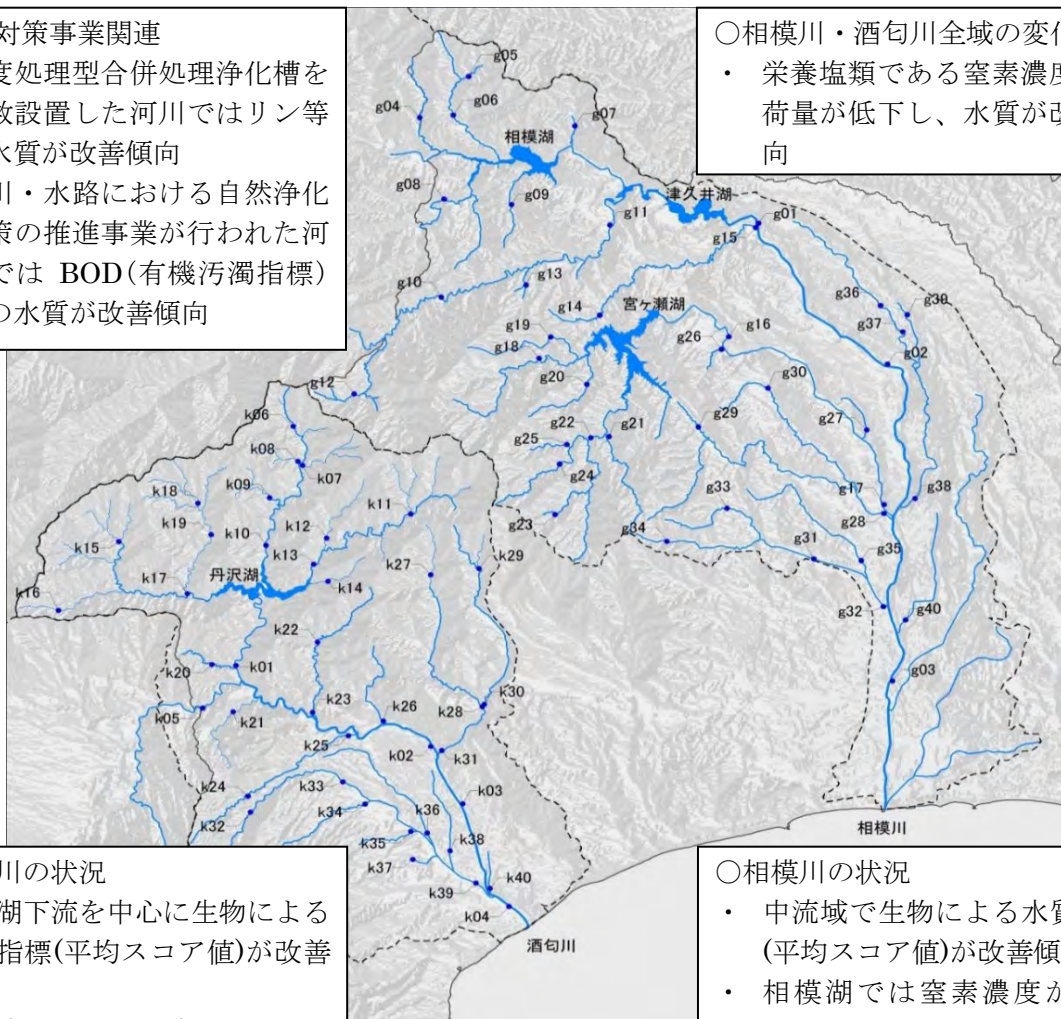
してもらい、「かながわ水源環境保全・再生事業」の普及啓発を行うとともに、「①河川の流域における動植物等調査」を補完することを目的とする。

○特別対策事業関連

- ・ 高度処理型合併処理浄化槽を多数設置した河川ではリン等の水質が改善傾向
- ・ 河川・水路における自然浄化対策の推進事業が行われた河川では BOD(有機汚濁指標)等の水質が改善傾向

○相模川・酒匂川全域の変化

- ・ 栄養塩類である窒素濃度・負荷量が低下し、水質が改善傾向



○酒匂川の状況

- ・ 丹沢湖下流を中心に生物による水質指標(平均スコア値)が改善傾向
- ・ BOD(有機汚濁指標)や窒素・リン全般について水系全体で水質が改善傾向

○相模川の状況

- ・ 中流域で生物による水質指標(平均スコア値)が改善傾向
- ・ 相模湖では窒素濃度が低下し、水質が改善傾向

図1 相模川・酒匂川の調査地点一覧と調査結果概要

I 河川の流域における動植物等調査（相模川水系及び酒匂川水系の各 40 地点）

第 1 期から第 3 期の施策実施期間中の河川環境の変化を把握するため、平均スコア値、多様度指数、BOD、全窒素、全リンについて、第 1 期から第 3 期の比較を行った。

(i) 平均スコア値の経年変化

<相模川>

水質及び自然度の評価指標である平均スコア値の相模川水系の経年変化を図 2 に示す。

第 3 期調査では中流域（標高 50～200m）の地点で平均スコア値が上昇（＝水質改善）する傾向がみられた。中流域の平均スコア値の変化を表 1 に示す。

特に g15(串川・河原橋)、g37(鳩川・新一の沢橋)、g39(道保川・一ノ関橋)、g36(鳩川・今橋)は河川の全リンの濃度も低下しており、化学的、生物的の両面から水質が向上していることが確認された。これらの地点の生物相をみると、汚濁に強いサカマキガイ科といったスコア値の低い分類群が出現しなくなり、清浄な環境を好むヒラタカゲロウ科、カワゲラ科、ヒラタドロムシ科などのスコア値が高い分類群が増加しており、これにより平均スコア値が上昇したと考えられた(それぞれ科で発見地点数の変化が大きかった種の分布域の経年変化を図 3 に示す)。

平均スコア値 (ASPT) : 水質及び自然度の評価指標。底生動物に対して、耐汚濁性の強い生物から弱い生物(科レベル)へ 1～10 のスコアを与え、採集された生物のスコアの平均値により評価。数字が高いほうが良い水質とされる。

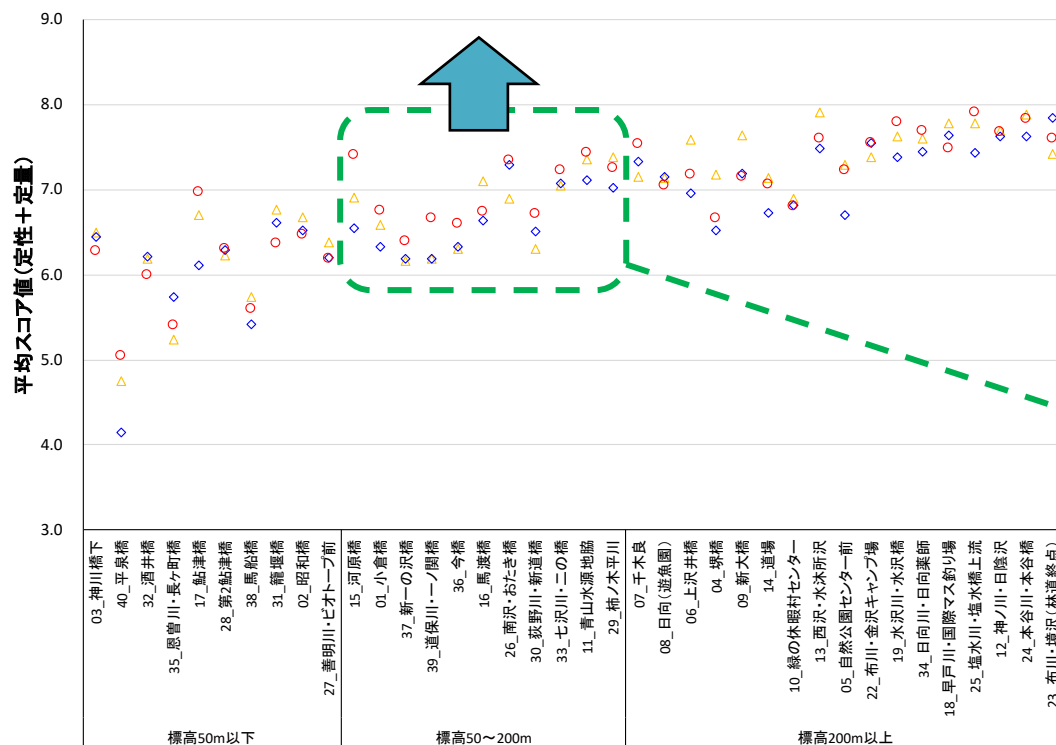


図 2 相模川水系の平均スコア値の経年変化

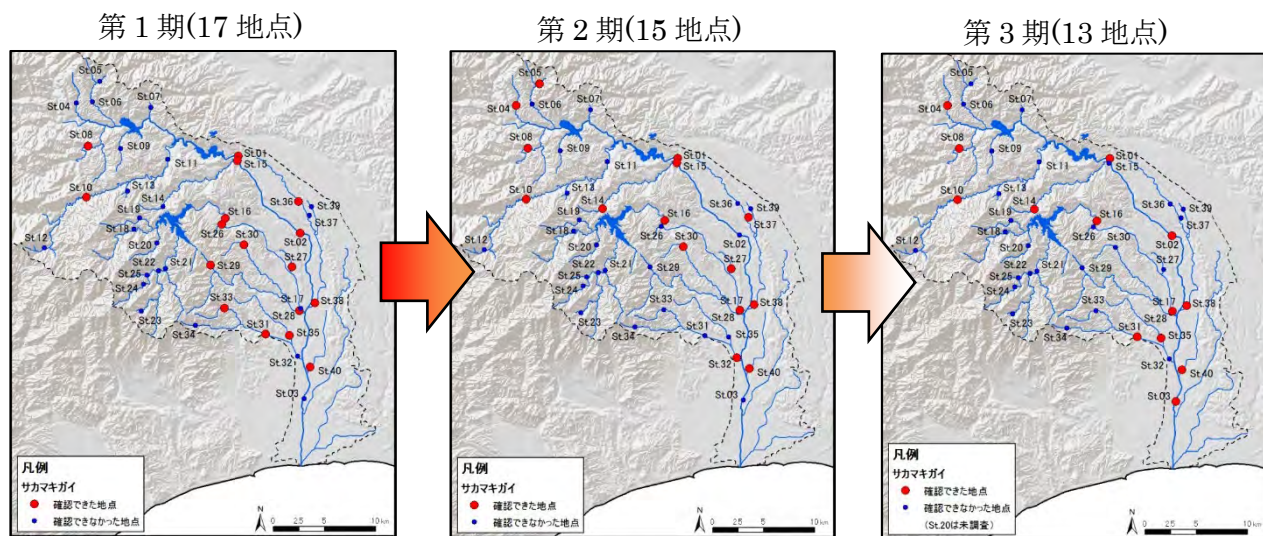
表 1 相模川水系中流域の平均スコア値の経年変化

調査地点	g15	g01	g37	g39	g36	g16	g26	g30	g33	g11	g29
第 1 期	6.9	6.6	6.2	6.2	6.3	7.1	6.9	6.3	7.0	7.4	7.4
第 2 期	6.6	6.3	6.2	6.2	6.3	6.6	7.3	6.5	7.1	7.1	7.0
第 3 期	7.4	6.8	6.4	6.7	6.6	6.7	7.3	6.7	7.2	7.4	7.3
増減	▲	▲	—	▲	▲	▼	▲	▲	—	—	—

注: 第 1 期と第 3 期を比較し、0.3 以上の増減があったものを増減の矢印で表記している。

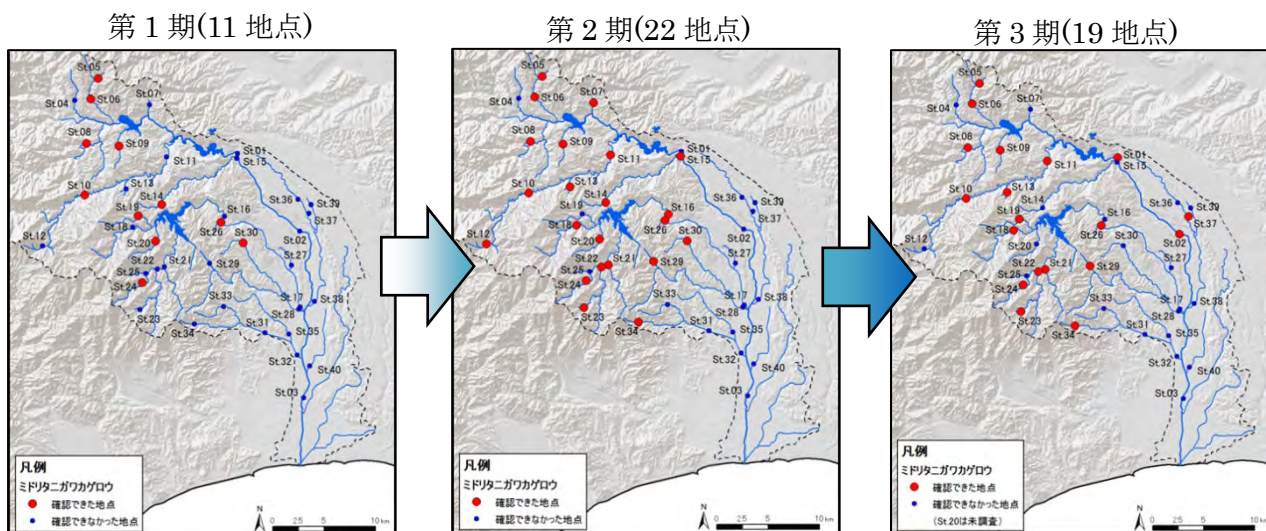
＜スコア値の低い(汚濁に強い)種の分布の変化図＞

サカマキガイ科 (スコア値 : 1)

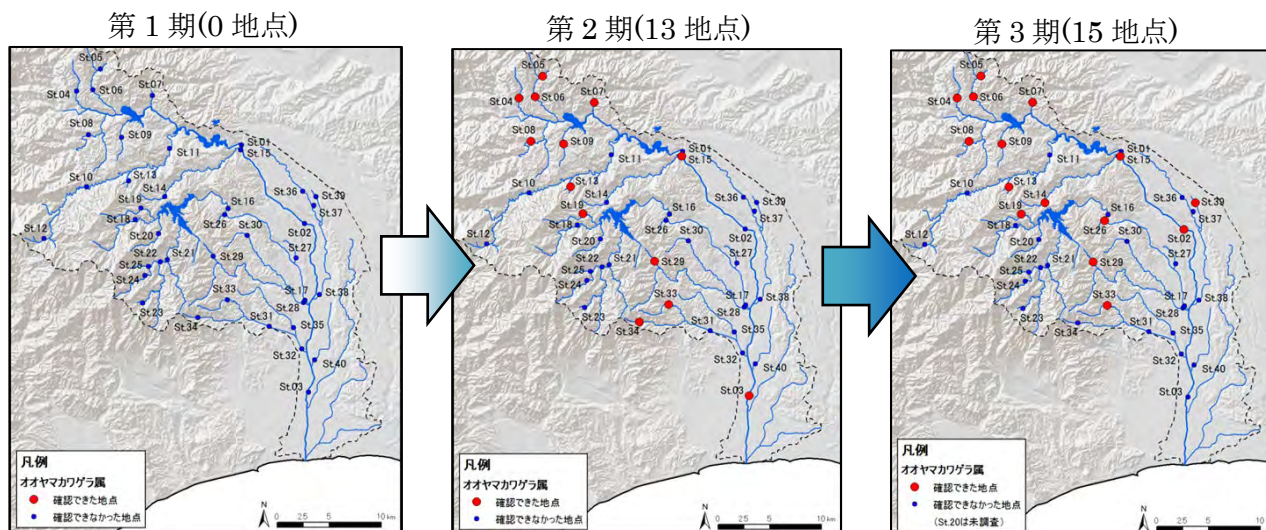


＜スコア値が高い(清浄な環境を好む)種の分布の変化図＞

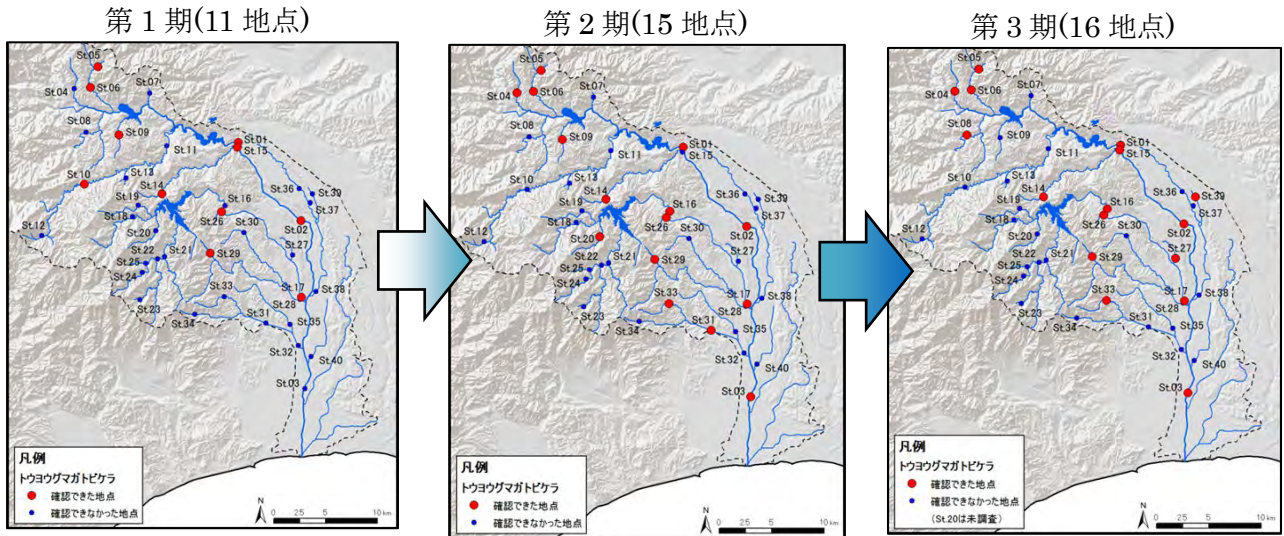
ヒラタカゲロウ科ミドリタニガワカゲロウ (スコア値 : 9)



カワゲラ科オオヤマカワゲラ (スコア値 : 9)



ケトビケラ科トウヨウグマガトビケラ (スコア値 : 9)



ヒラタドロムシ科ヒメマルヒラタドロムシ (スコア値 : 8)

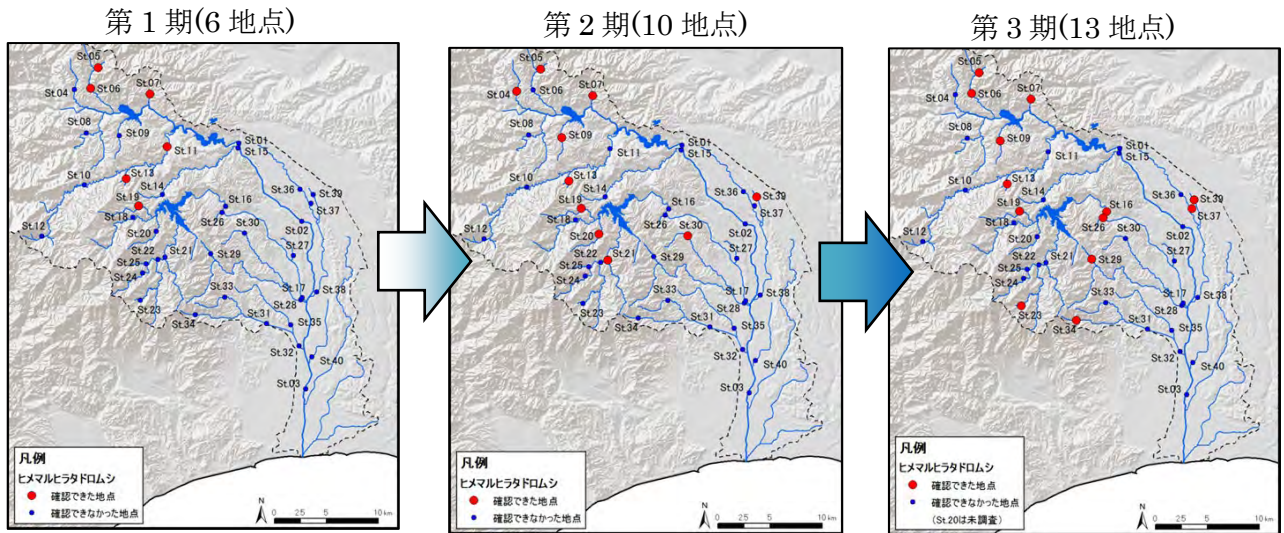


図3 発見地点数の変化が大きかった種の分布域の経年変化

<酒匂川>

水質及び自然度の評価指標である平均スコア値の酒匂川水系の経年変化を図4に示す。

第3期調査では中流域(標高 100~200m)の地点で平均スコア値が上昇する傾向がみられた。中流域の平均スコア値の変化を表2に示す。

これらの地点の生物相をみると、汚濁に強いサカマキガイ科やチョウバエ科といったスコア値の低い分類群が出現しなくなる傾向がみられ、これにより平均スコア値が上昇したと考えられた(それぞれ科の分布域の経年変化を図5に示す)。

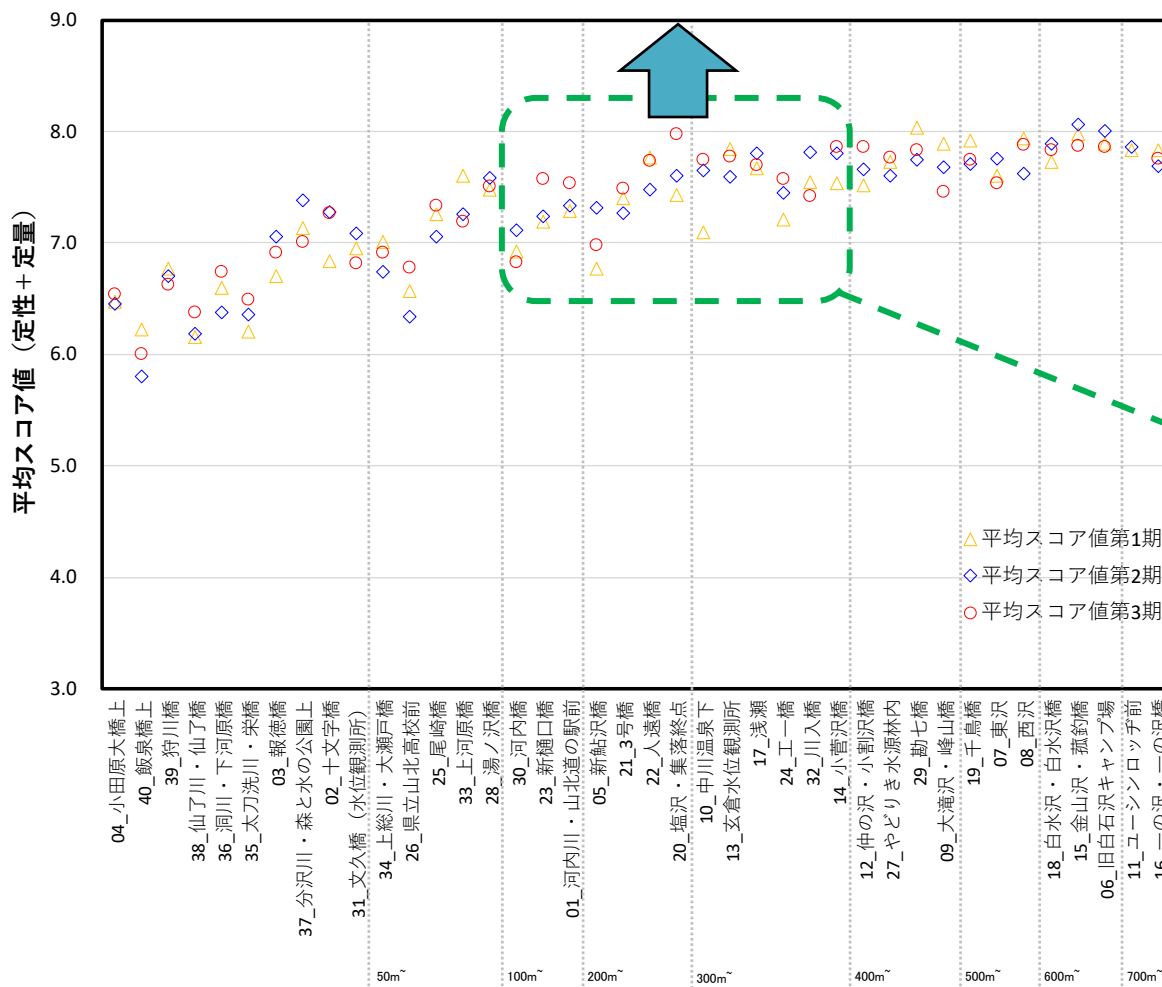


図4 酒匂川水系の平均スコア値の経年変化

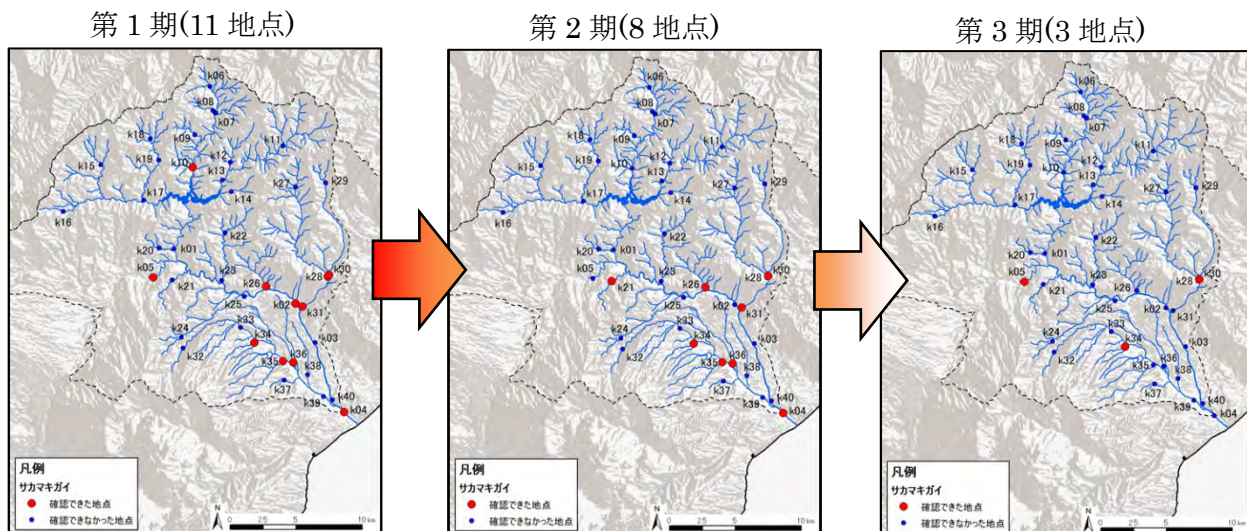
表2 酒匂川水系中流域の平均スコア値の経年変化

調査地点	k30	k23	k01	k05	k21	k22	k20	k10	k13	k17	k24	k32	k14
第1期	6.9	7.2	7.3	6.8	7.4	7.8	7.4	7.1	7.8	7.7	7.2	7.5	7.5
第2期	7.1	7.2	7.3	7.3	7.3	7.5	7.6	7.7	7.6	7.8	7.4	7.8	7.8
第3期	6.8	7.6	7.5	7.0	7.5	7.7	8.0	7.7	7.8	7.7	7.6	7.4	7.9
増減	-	▲	-	▲	-	-	▲	▲	-	-	▲	-	▲

注:第1期と第3期を比較し、0.3以上の増減があったものを増減の矢印で表記している。

<スコア値の低い(汚濁に強い)分類群の分布の変化図>

サカマキガイ科 (スコア値 : 1)



チョウバエ科 (スコア値 : 1)

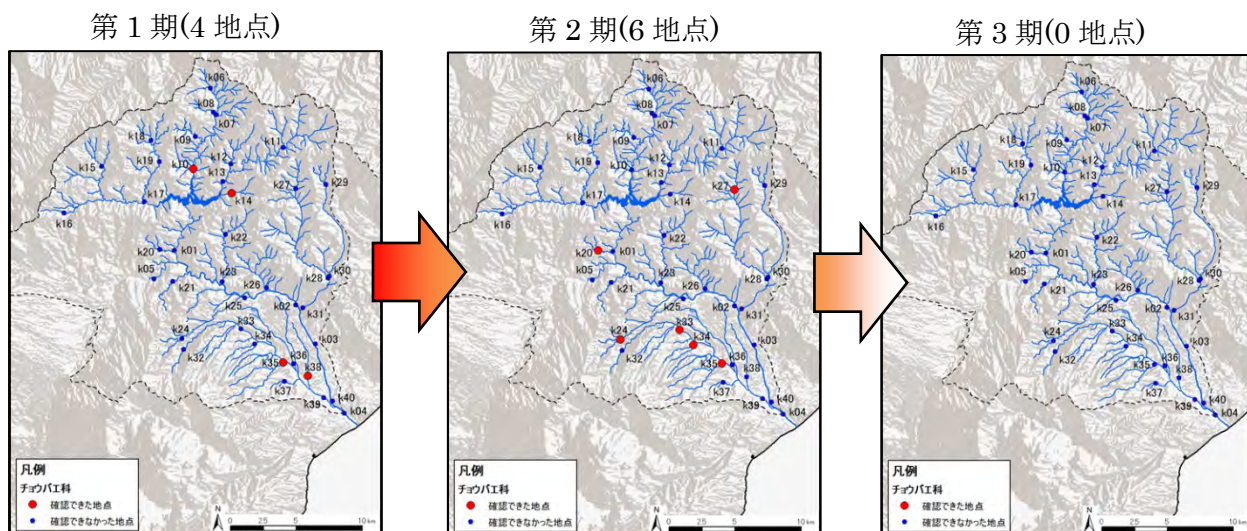


図5 発見地点数の変化が大きかった分類群の分布域の経年変化

(ii) 多様性指数(H')の経年変化

<相模川>

生物多様性の指標である多様性指数の相模川水系の経年変化を図6に示す。今回は底生動物の定量調査に対して、種数とそれぞれの種に属する個体数を基にして夏季、冬季に分けて計算している。

第1期から第3期の変化として、夏季では標高50m以上の中上流域で数値が上昇する地点が多くみられ、逆に冬季では上流域で低下する地点が多くみられた。夏季の中流域の数値の上昇は平均スコア値の上昇や水質の改善と関連している可能性は考えられたが、上流域では一定の傾向はみられず、引き続き傾向を注視していく必要がある。

多様性指数(H')：生物多様性の評価指標。種類数が多いほど、かつ種ごとの個体数が均等なほど高い値となり、当該調査地点の生物多様性が高いと評価される。

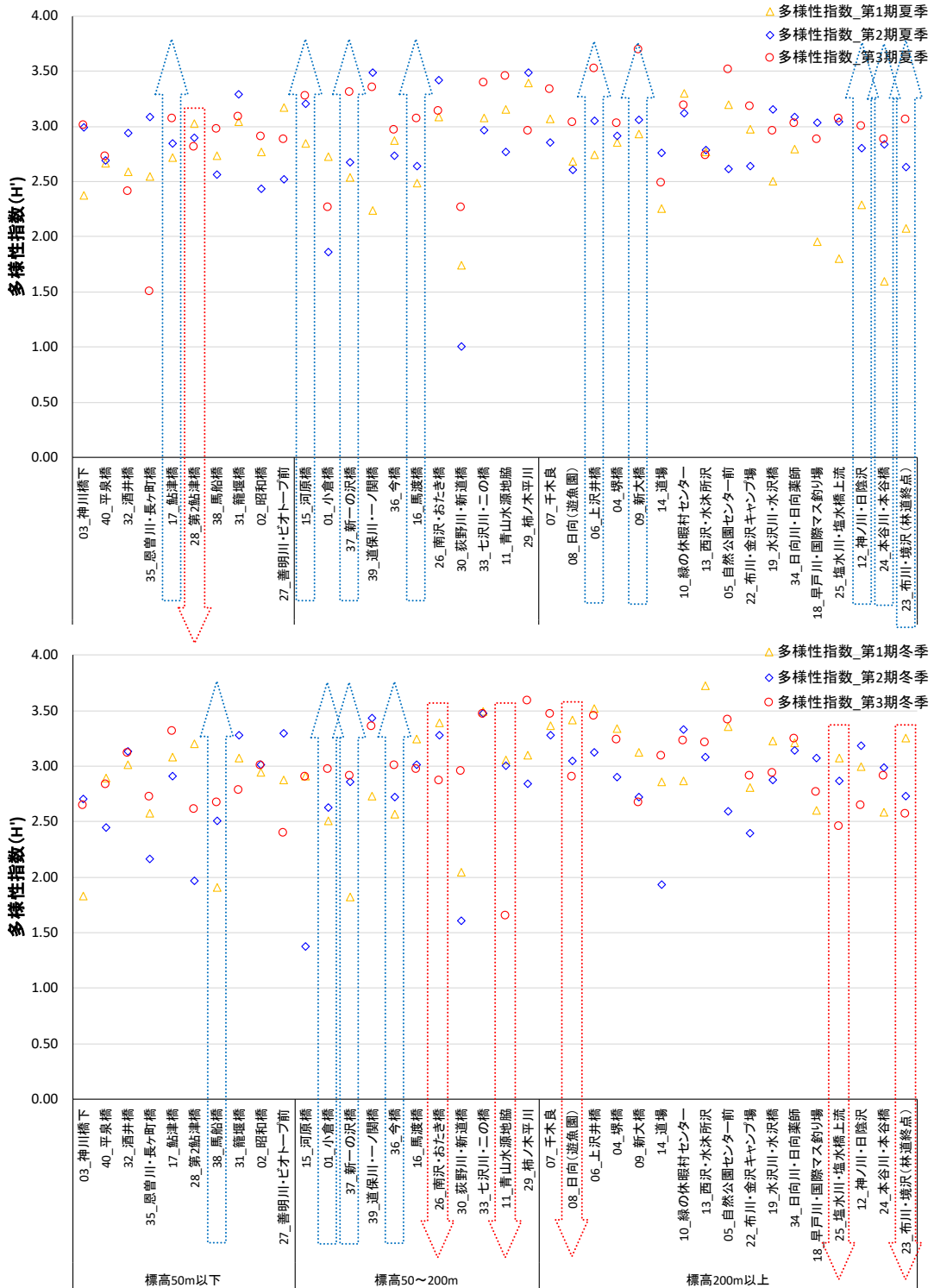


図6 相模川水系の多様性指数の経年変化

<酒匂川>

生物多様性の指標である多様性指数の酒匂川水系の経年変化を図7に示す。酒匂川水系についても相模川水系と同様夏季、冬季で調査を実施したが、冬季の底生動物の定量調査は令和元年10月に上陸した台風の影響により大きな攪乱を受けていたため、過年度との比較は適切ではないと判断し、夏季のみの評価とした。

第1期から第3期の変化として、全体的に多様性指数が減少した地点が多かった。多様性指数が減少した地点については、人為的な影響が少ない地点も多く、水質の変動よりもその他の環境条件の変化を反映しているのではないかと考えられ、引き続き傾向を注視していく必要がある。

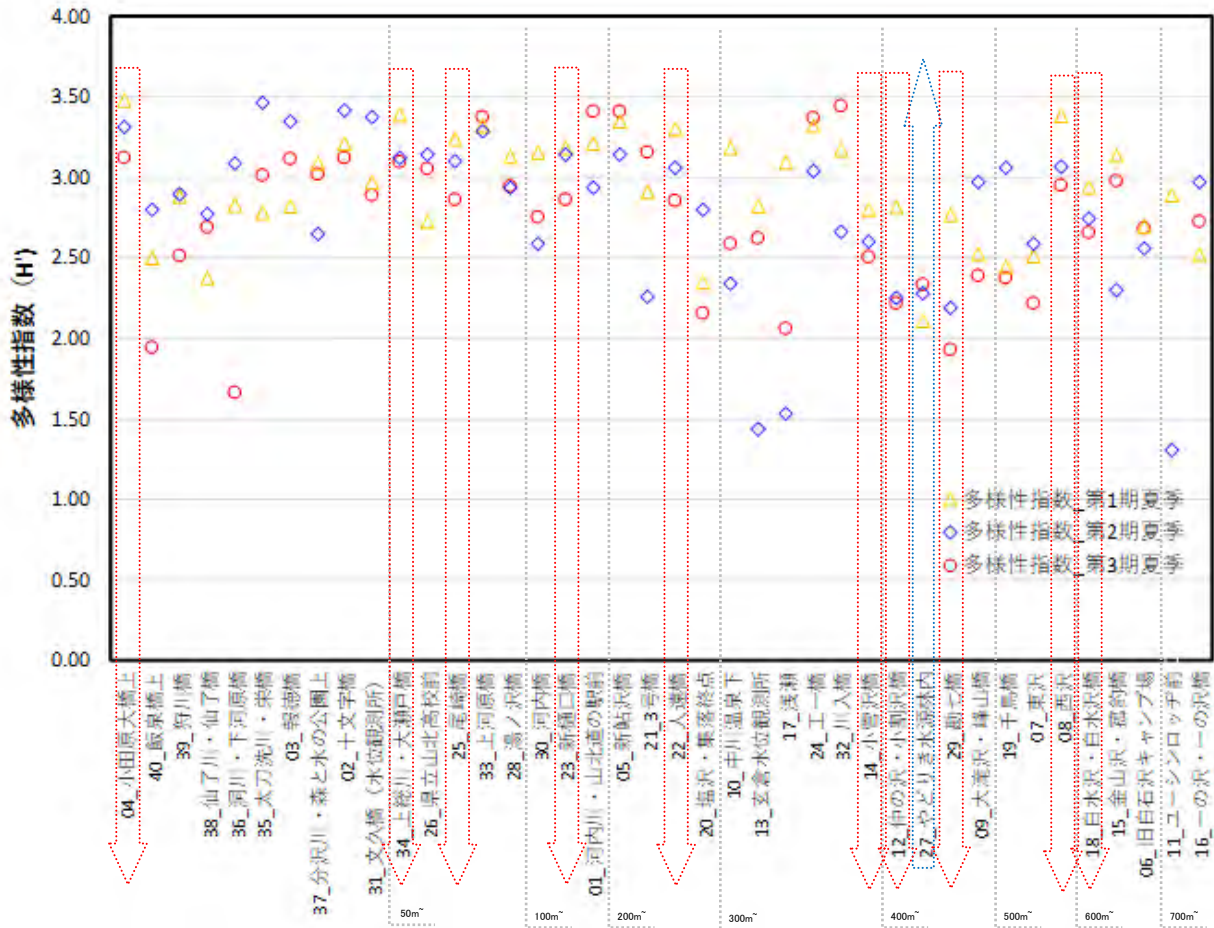


図7 酒匂川水系の多様性指数の経年変化

(iii) BOD の経年変化

<相模川水系>

有機汚濁の評価指標である BOD 濃度(年平均値)の相模川水系の経年変化を図 8 に示す。

全体的な傾向としては、平成 25 年度調査時は平成 20 年度調査に比べ、多くの地点で濃度が低下する傾向がみられたが、有意($p < 0.05$ で検定、以降同様。)に低下(グラフ上に青矢印で表記。以降同様)した地点は 2 地点と少なかった。平成 30 年度調査は平成 20 年度に比べ、濃度が低下した地点の方が若干多かったが、平成 25 年度と同様に有意に低下した地点は 3 地点と少なかった。

g32(玉川・酒井橋(図 8 の緑点線で囲った地点))は平成 20 年度と比べ、平成 25 年度、平成 30 年度のいずれも有意に年平均値が低下した唯一の地点であった。この要因として調査地点上流で玉川に流れ込む恩曾川(g35(図 8 の青点線で囲った地点))の水質改善が寄与していると考えられた。恩曾川は「河川・水路における自然浄化対策の推進」事業が行われた河川であり、事業実施後年々水質が改善傾向を示している。

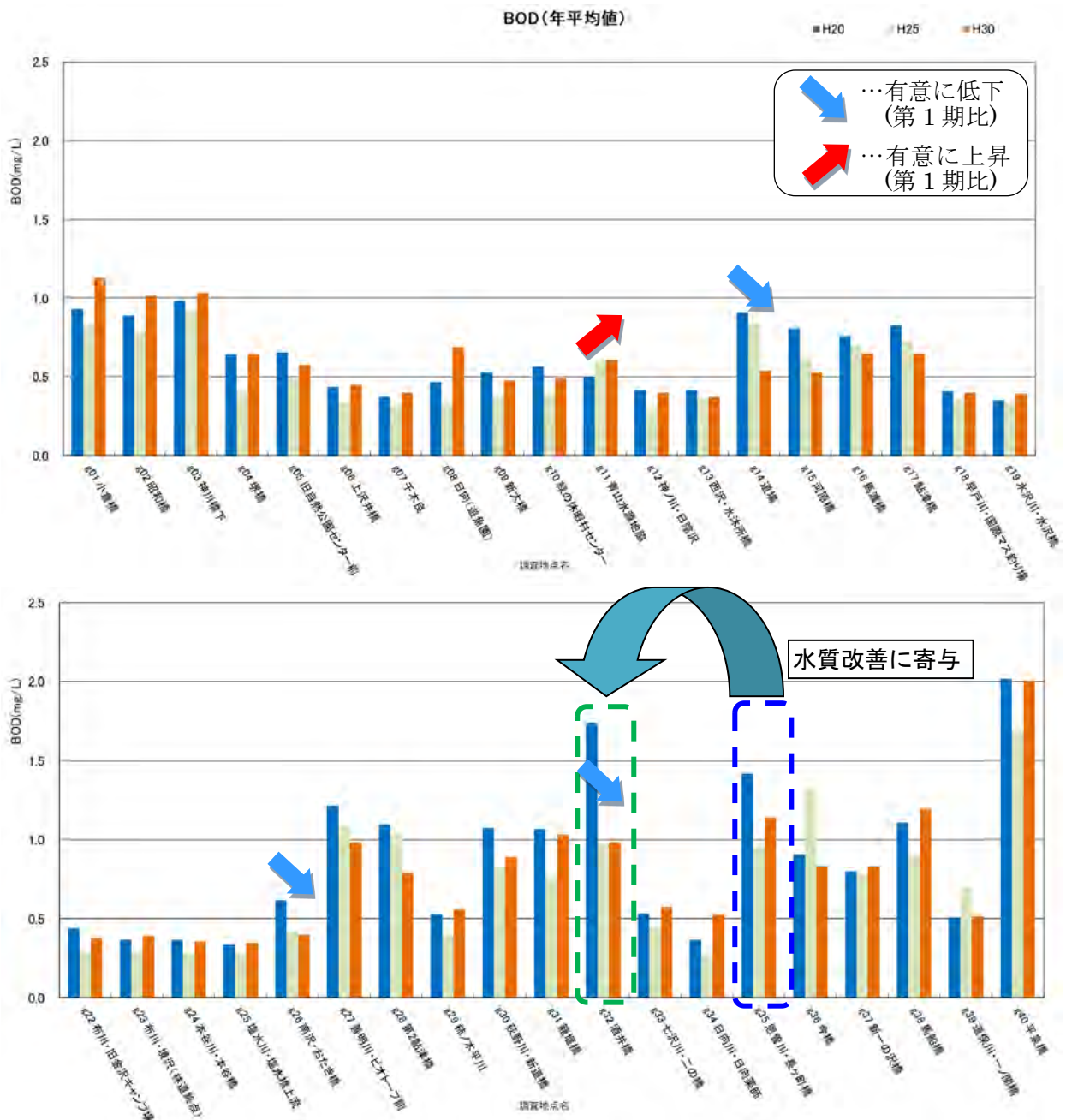


図 8 相模川水系の BOD 濃度の経年変化

<酒匂川>

有機汚濁の評価指標である BOD 濃度(年平均値)の酒匂川水系の経年変化を図9に示す。

全体的な傾向としては、平成 26 年度調査時は平成 21 年度調査に比べ、多くの地点で濃度が低下する傾向がみられたが、有意に低下した地点は相模川水系と同様 2 地点と少なかった。一方で令和元年度調査は平成 21 年度に比べ、ほとんどの地点で濃度が低下し、有意に低下した地点も 9 地点と大きく増加した。

この要因としては、平成 21 年度当時の酒匂川流域における下水道普及率が 78%程度だったものが、令和元年調査時には 85%以上となったことや k10(中川温泉下)では調査地点上流において水源環境保全事業により、生活排水等の処理を行わない単独処理浄化槽から生活排水等の処理も行う合併処理浄化槽へ転換が進んだこと等が考えられた。

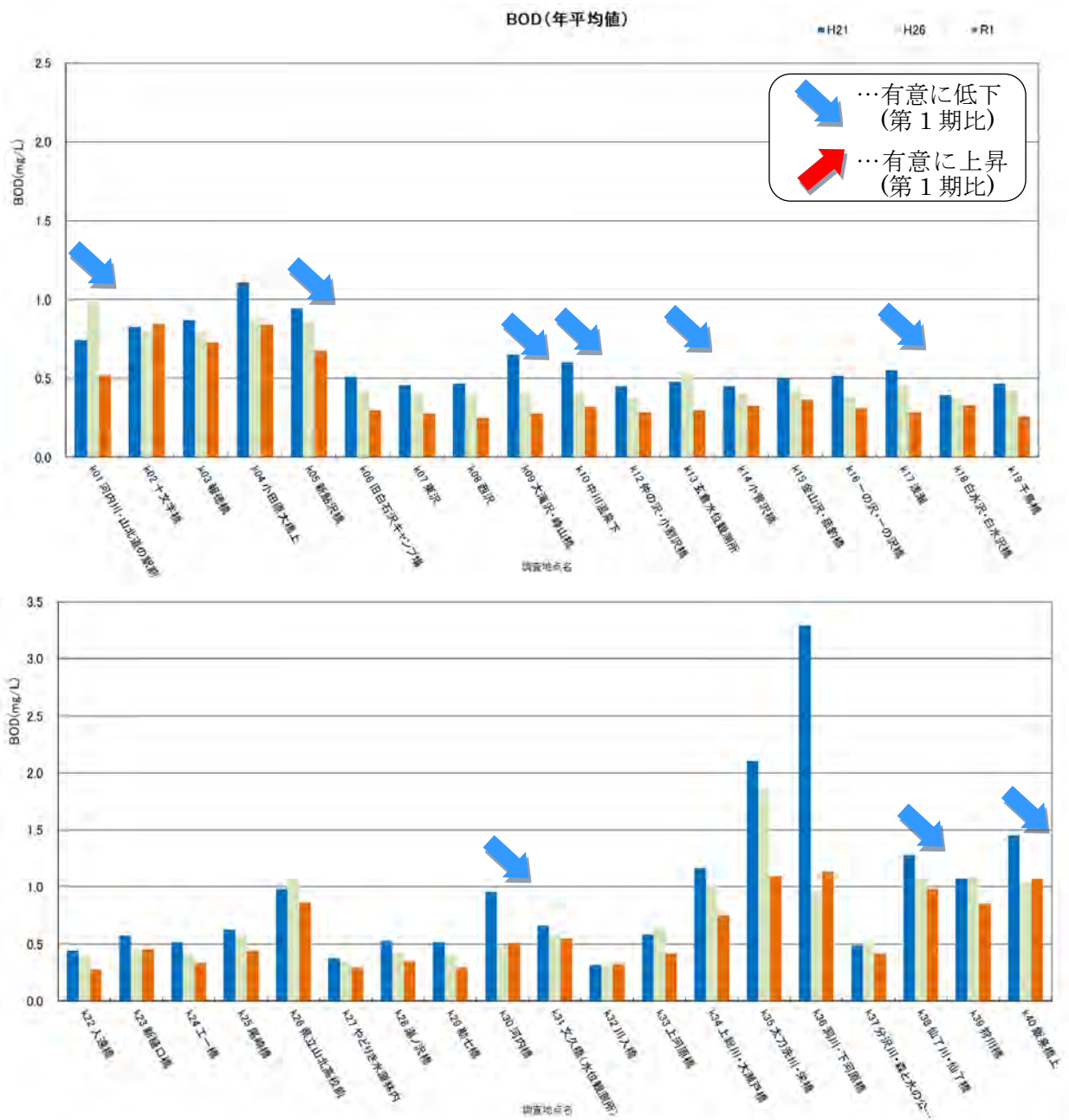


図9 酒匂川水系の BOD 濃度の経年変化

(iv) 全窒素の経年変化

<相模川水系>

富栄養化の評価指標である全窒素濃度(年平均値)の相模川水系の経年変化を図10に示す。

全体の傾向としては、平成20年度に比べ平成25年度の方が、平成25年度に比べ平成30年度の方が多くの地点で濃度が有意に低下していた。平成30年度と平成20年度を比較するとg27(善明川・ビオトープ前)以外の全ての地点で低下していた。人家等がない上流域においても低下傾向を示したことから、大気からの降下等の広域的な汚染源からの負荷が少なくなったのではないかと考えられた。

また、相模湖(湖央東部表層)の全窒素濃度の経年変化を図11に示す。平成20年ごろから全窒素濃度が低下する傾向がみられており、全域的な全窒素濃度の低下が湖の水質改善に寄与している可能性が示唆された。アオコの栄養源である全窒素濃度の低下は湖のアオコ発生を抑制することが期待され、今後のアオコ発生量の推移を注視していく必要がある。

全窒素：富栄養化の評価指標。無機窒素（アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素等）及び有機窒素（生物遺骸、アミノ酸、尿素等）の総量。

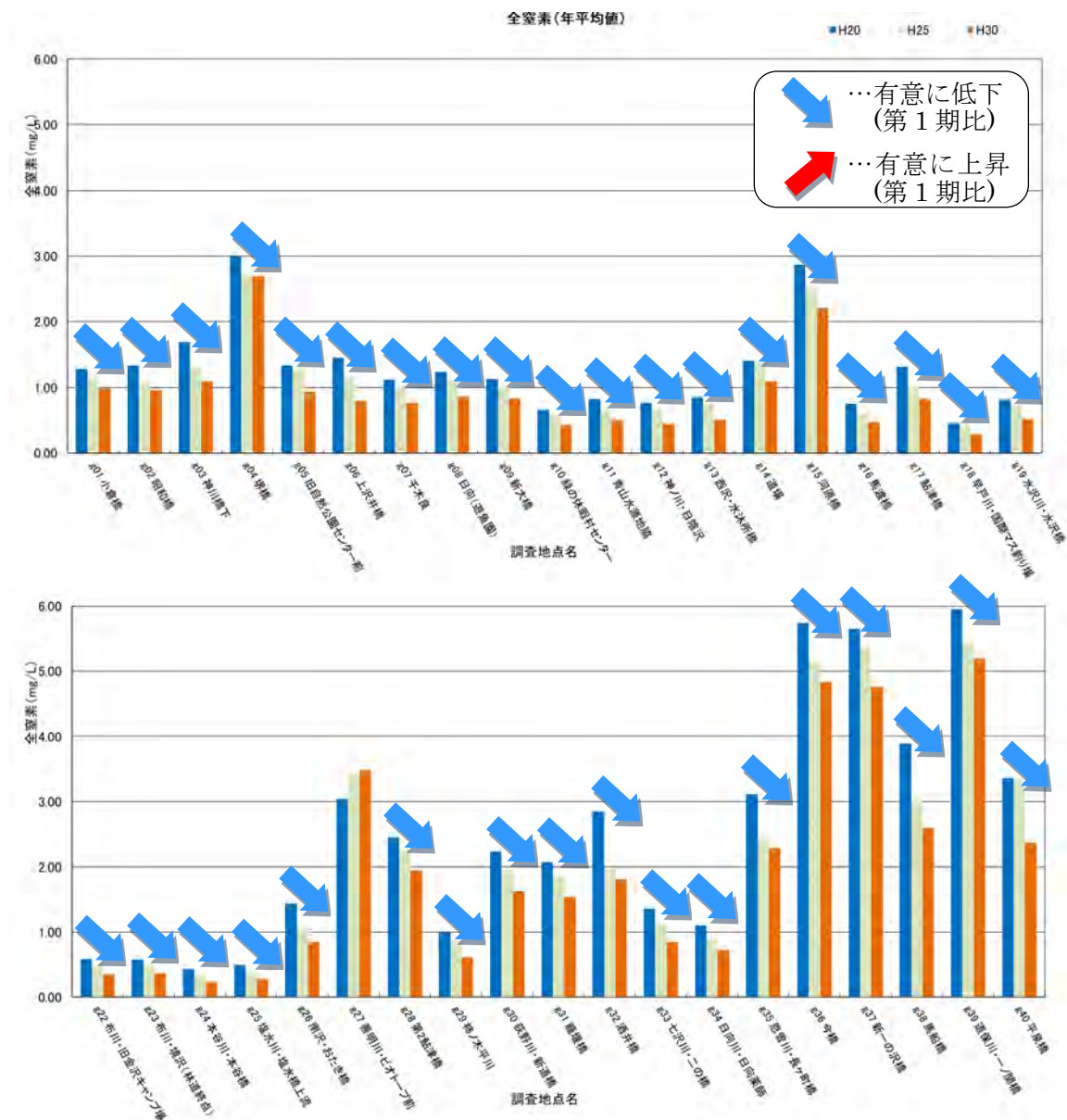


図10 相模川水系の全窒素濃度の経年変化

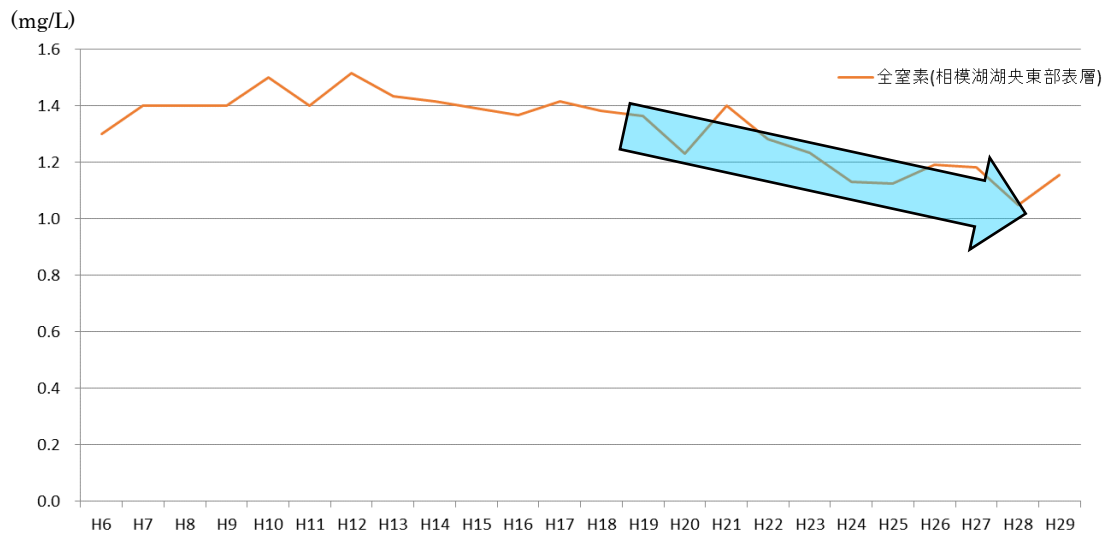


図 11 相模湖湖央東部表層における全窒素濃度の経年変化

<酒匂川水系>

富栄養化の評価指標である全窒素濃度(年平均値)の酒匂川水系の経年変化を図12に示す。

全体の傾向としては、相模川水系と同様に平成21年度に比べ平成26年度の方が、平成26年度に比べ令和元年度の方が多くの地点で濃度が有意に低下していた。令和元年度と平成21年度を比較するとk35(太刀洗川・栄橋)以外の全ての地点で低下していた。

この要因についても相模川水系と同様、人家等がない上流域においても低下傾向を示したことから、大気からの降下等の広域的な汚染源からの負荷の低減が考えられた。

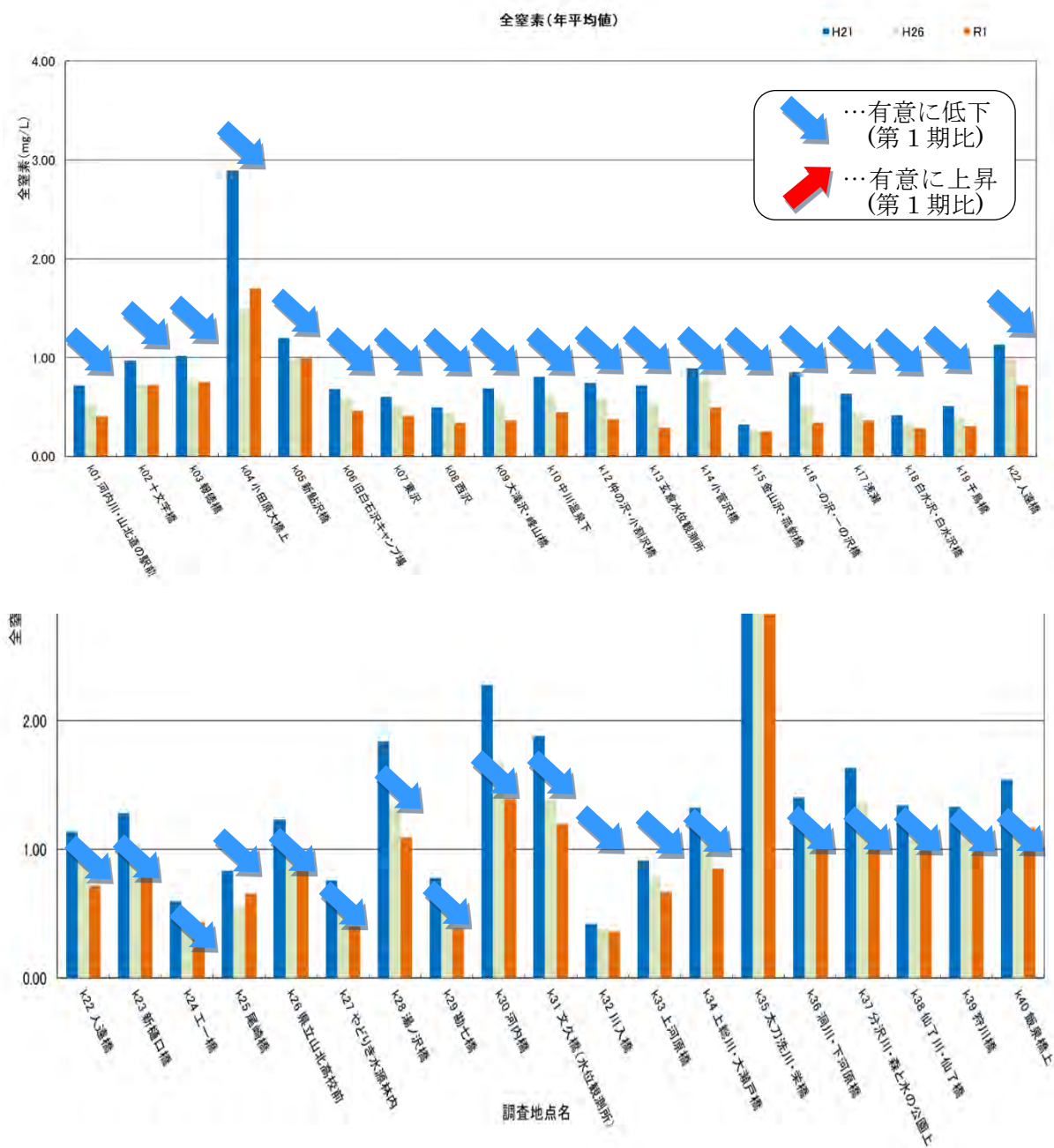


図12 酒匂川水系の全窒素濃度の経年変化

(v) 全リンの経年変化

<相模川水系>

富栄養化の評価指標である全リン濃度(年平均値)の相模川水系の経年変化を図 13 に示す。

全体としては平成 20 年度に比べ、濃度が低下している地点のほうが多かった。g2(相模川・昭和橋)、g32(玉川・酒井橋)、g37(鳩川・新一の沢橋)、g39(道保川・一ノ関橋)は平成 20 年度と比べ、平成 25 年度、平成 30 年度のいずれも有意に濃度が低下した。

串川と相模川が合流する手前の調査地点である g15(串川・河原橋)は平成 20 年度から平成 25 年度にかけては大きな濃度変化はなかったものの、平成 25 年度から平成 30 年度にかけては、有意に濃度が低下した。当該河川は相模川の支川のうち「生活排水処理施設の整備促進」事業により最も多くの高度処理型合併処理浄化槽を整備した河川であり、その効果が g15 の水質に表れてきている可能性が考えられ、今後の水質変化を注視していく必要がある。

一方で、g23(布川・境沢(林道終点))、g27(善明川・ビオトープ前)は平成 20 年度に比べて平成 30 年度は有意に濃度が上昇していた。g23 については人為的汚染が少ない地点であり原因は不明であるが、g27 については田んぼからの排水が多く、年間の水量の変動が大きいため、濃度による評価は適切ではないと判断し、負荷量での比較を行ったところ、平成 30 年度の方が平成 20 年度よりも負荷量が少なかった。これは平成 20 年度に比べ平成 30 年度の方が河川の流量が少ないことに起因すると考えられた。

全リン：富栄養化の指標。無機態リン（リン酸態リン等）及び有機態リン（生物遺骸、含リン有機化合物等）の総量。

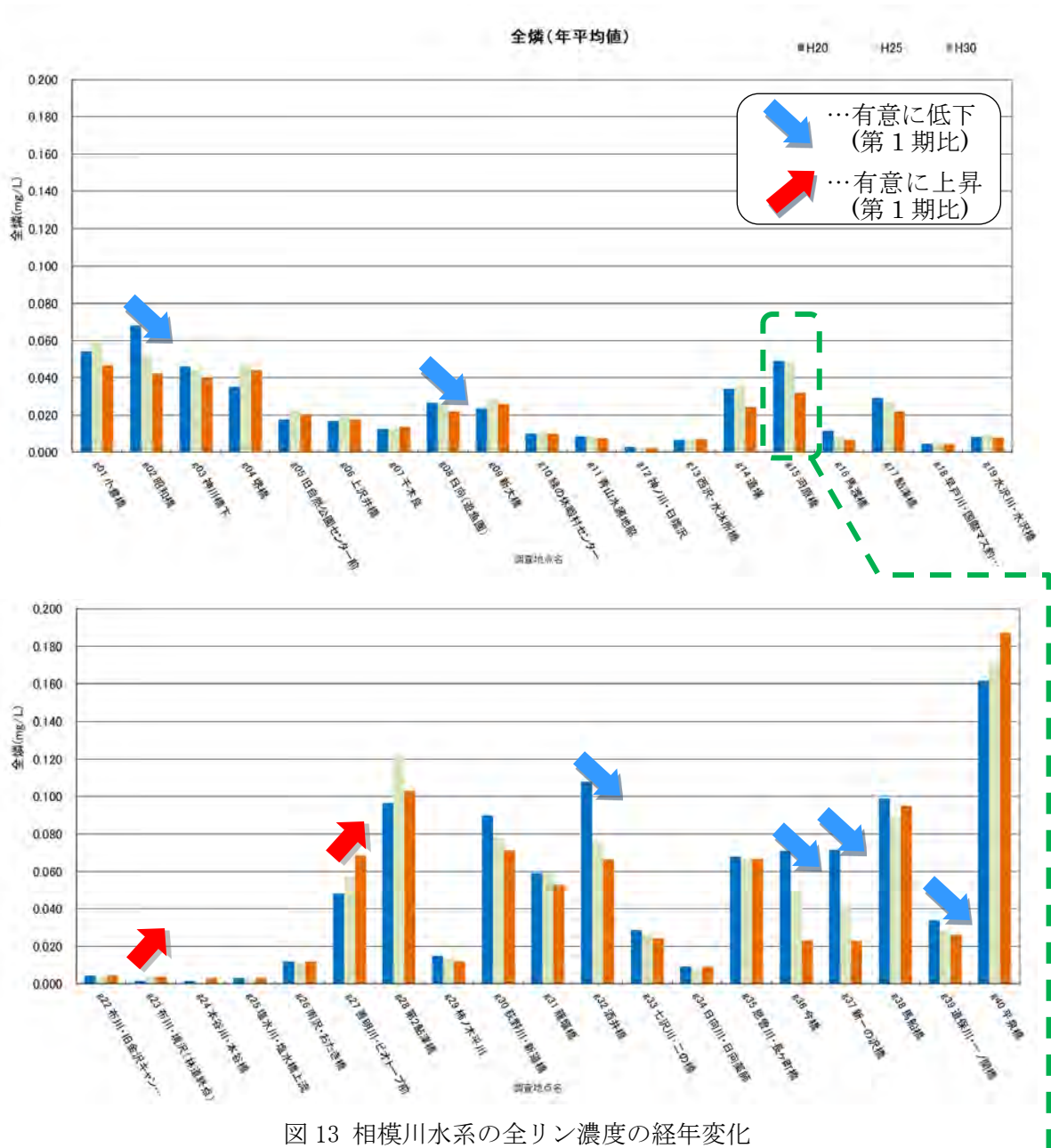


図 13 相模川水系の全リン濃度の経年変化



図 14 串川の高度処理型合併処理浄化槽設置場所一覧

- 串川上流域の鳥屋地区は高度処理型浄化槽集中整備事業区域(モデル地区)であり、浄化槽の整備が重点的に行われた地区である。
- 平成 22 年度から平成 23 年度にかけて鳥屋地区内における浄化槽の設置割合と側溝排水の窒素やリンの濃度の関係を調査したところ、設置割合の上昇とともに排水中の窒素やリンの濃度が低下することが明らかとなっている。

<酒匂川水系>

富栄養化の評価指標である全リン濃度(年平均値)の酒匂川水系の経年変化を図15に示す。

全体としては平成21年度に比べ、濃度が低下している地点がほとんどであった。有意に濃度が上昇した地点はなく、比較的濃度の上昇幅が大きかったのは県外からの流入河川の調査地点であるk05(新鮎沢橋)のみであり、酒匂川水系全体としてはリン濃度が低下傾向を示していると考えられる。

また、k30(河内橋)は平成21年度と比べ、BOD、全窒素、全リンのいずれも有意に濃度が低下しており、当該河川の水質が向上していることが明らかとなった。

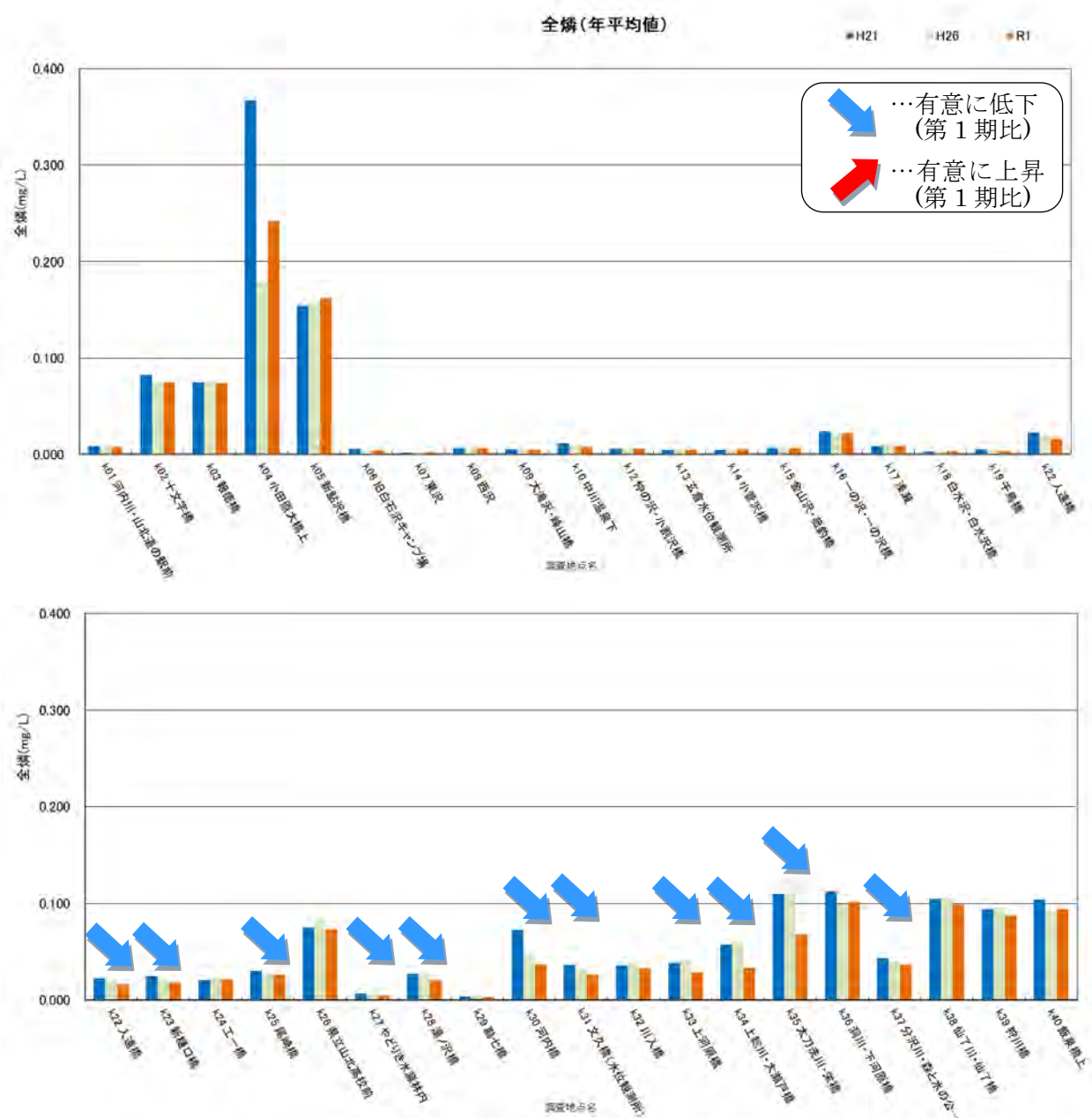


図15 酒匂川水系の全リン濃度の経年変化

③地下水モニタリング

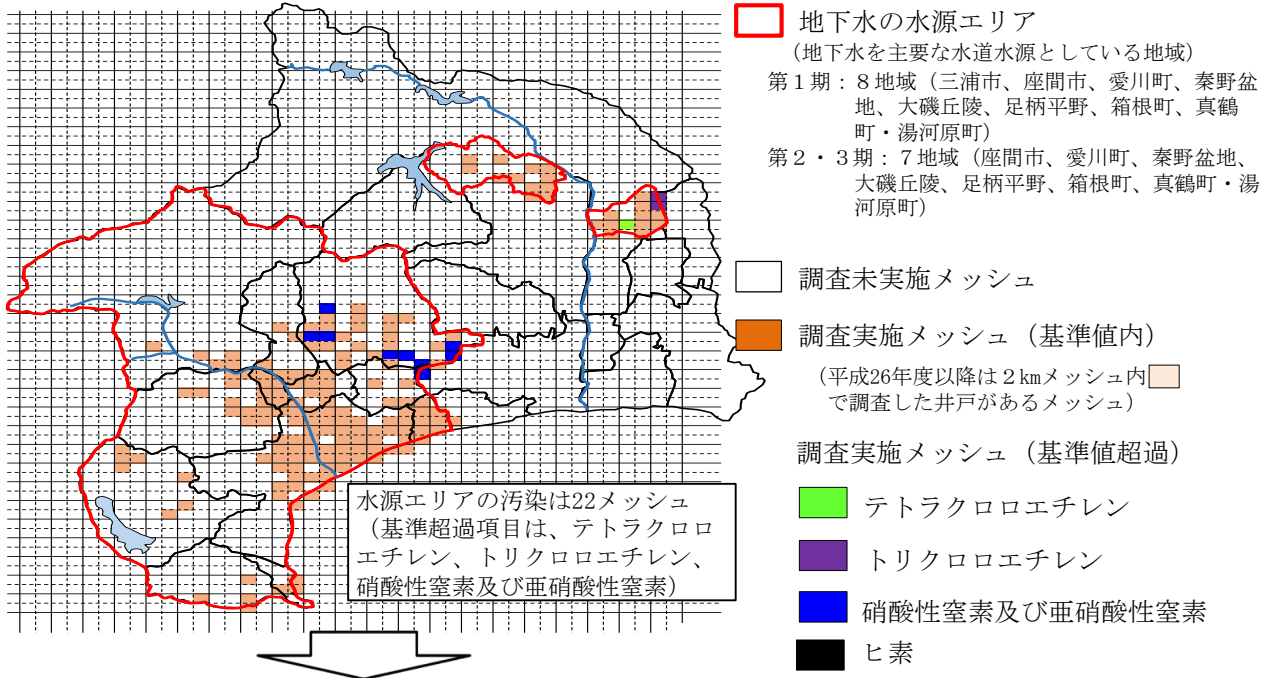
○メッシュ調査

県内全域をメッシュ（平成25年度まで1km、平成26年度以降は2km間隔）に分割し、メッシュ内から選定した一つの井戸について水質を調査するもので、4年で一巡するように実施している。
 （水質汚濁防止法第16条により作成した地下水質測定計画に基づき実施する概況調査の一つである。）

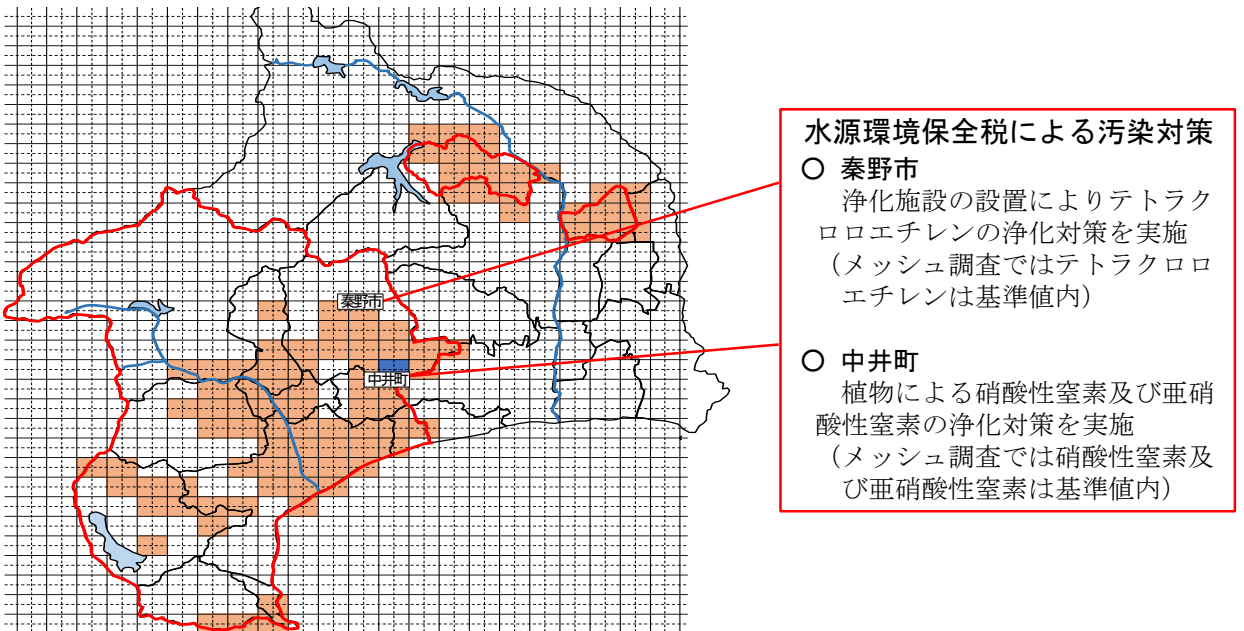
○水源エリアのメッシュ調査結果

【平成14年度～17年度地下水質汚染状況】

凡例



【平成30年度～令和3年度地下水質汚染状況】

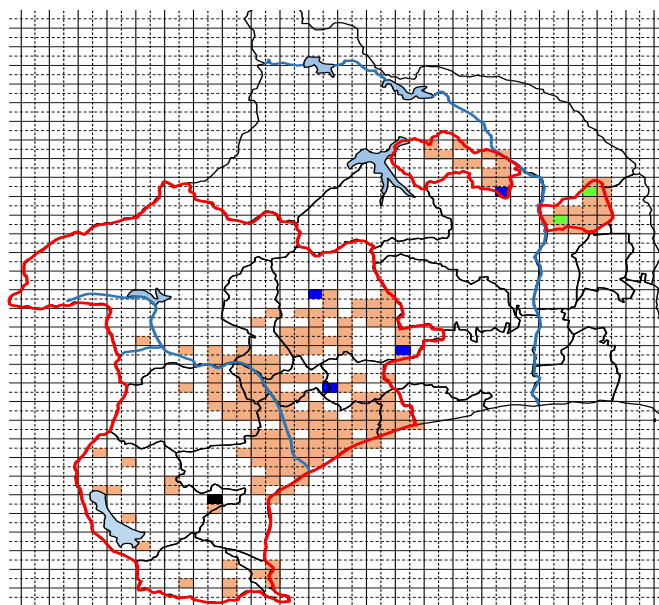


※ 地下水質汚染状況は、公共用水域及び地下水の水質測定結果のメッシュ調査結果を引用

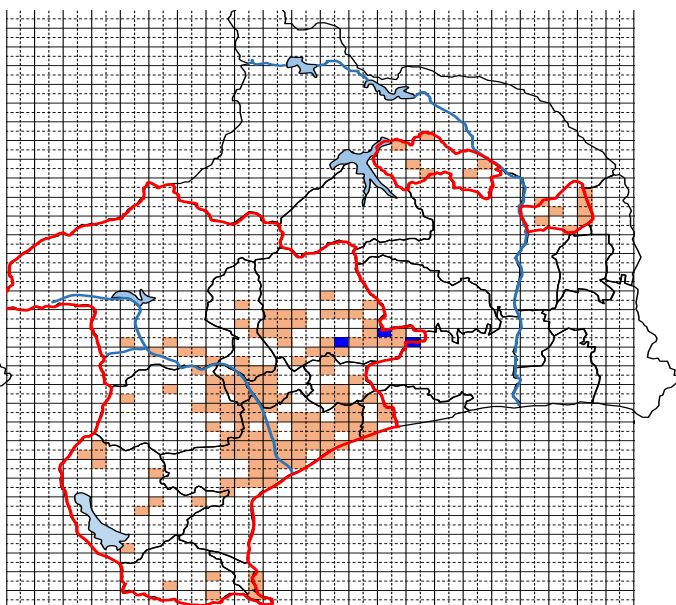
水源エリアの地下水質汚染状況は、平成14年度～17年度が22メッシュ／8地域（2kmメッシュでは17メッシュ相当）であったのに対し、平成30年度～令和3年度は1メッシュ／7地域であり汚染箇所が減少している。

○ 水源エリアのメッシュ調査結果

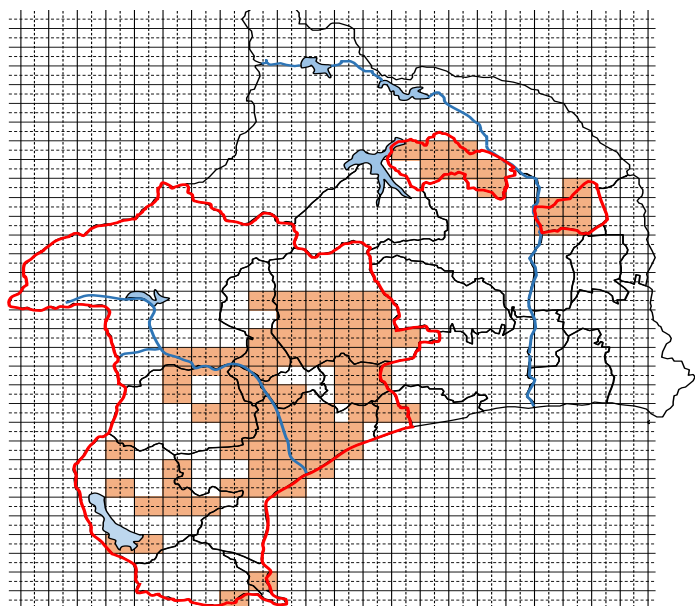
【平成18年度～21年度地下水質汚染状況】



【平成22年度～25年度地下水質汚染状況】



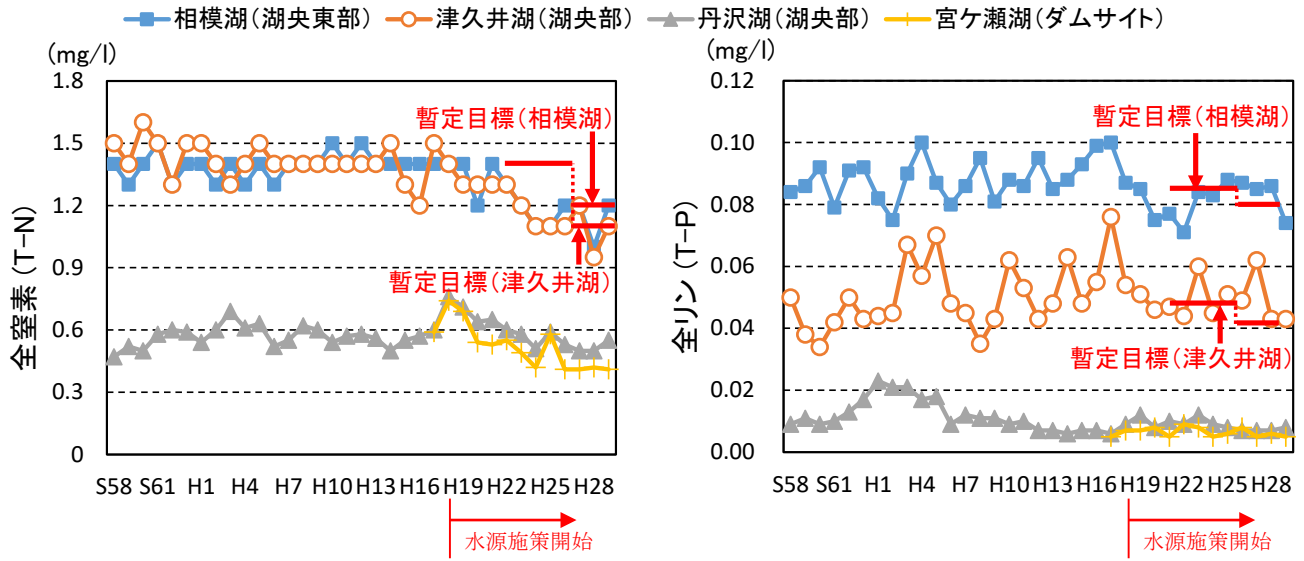
【平成26年度～29年度地下水質汚染状況】



※ 地下水質汚染状況は、公共用水域及び地下水の水質測定結果のメッシュ調査結果を引用

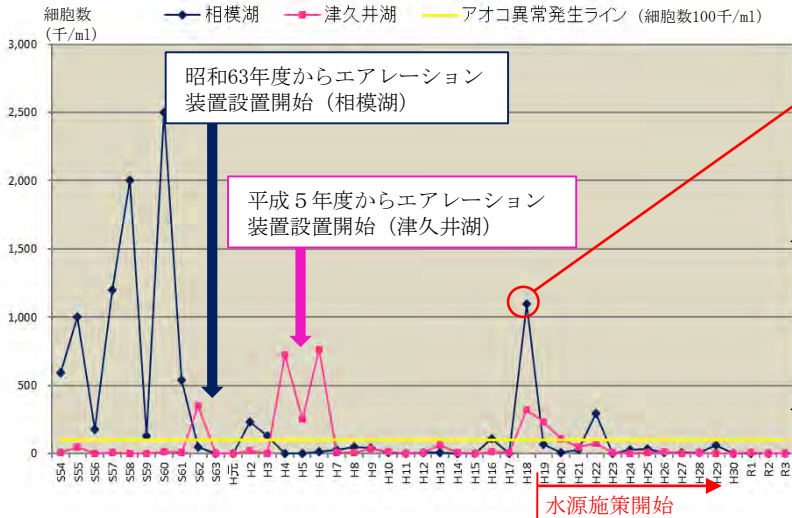
④ダム湖における公共用水域水質調査

○ 水質調査結果



※ 全窒素及び全リンについては、公共用水域及び地下水の水質測定結果からデータを引用

○ 相模湖・津久井湖のアオコ(ミカキスチス)発生状況



平成18年度のアオコ異常発生 (相模湖)



<原因> 「第9回相模湖・城山ダム水質直接浄化対策検討委員会資料」によると、春先および秋期の気温が上昇傾向にある中で暖冬による流入量の減少や表層水温の上昇などが重なったため、アオコ発生期間が長くなったと推定。

<対策>

- ・平成19年から水源施策を開始
- ・平成20年からエアレーションの開始時期を4月から3月に早めた。

・ エアレーションは、県土整備局河川課からの委託を受け、企業庁利水課が維持管理を実施している。

・ 大綱においては、アオコの発生しにくい湖内環境を創造する取組としてエアレーションを位置付け、汚濁負荷軽減対策などの取組と併せて実施していくとしている。



相模湖の現況

相模湖・津久井湖における栄養塩 (TN、TP) は依然として高い状況であるが、エアレーションによりアオコの発生が抑制されている。

(5) 事業評価シート

事業名	1 水源の森林づくり事業の推進																																																																																																				
事業のねらい・目的	良質で安定的な水を確保するため、水源の森林エリア内で荒廃が進む私有林の適切な管理、整備を進め、水源かん養など森林の持つ公益的機能の高い「豊かで活力ある森林」を目指す。	事業対象地域	水源の森林エリア																																																																																																		
事業内容	水源分収林、水源協定林、買取り、協力協約、長期施業受委託、環境保全分収林の6つの手法により確保した森林の公的管理・支援を推進し、巨木林、複層林、混交林など豊かで活力ある森林づくりを進める。さらに、シカの採食による整備効果の低減に対処するため、シカ管理捕獲と連携した森林整備を実施する。																																																																																																				
	<p>【事業量】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">第1期(H19~23)</th> <th colspan="3">第2期(H24~28)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水源林確保</td> <td>計画 6,215 ha</td> <td>実績 6,284 ha</td> <td>進捗率 101.1%</td> <td>計画 5,540 ha</td> <td>実績 5,378 ha</td> <td>進捗率 97.1%</td> </tr> <tr> <td>水源林整備</td> <td>計画 9,592 ha</td> <td>実績 10,325 ha</td> <td>進捗率 107.6%</td> <td>計画 11,067 ha</td> <td>実績 11,528 ha</td> <td>進捗率 104.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <th colspan="3">第3期(H29~R3)</th> <th colspan="3">合計</th> </tr> <tr> <td>水源林確保</td> <td>計画 2,700 ha</td> <td>実績 2,896 ha</td> <td>進捗率 107.3%</td> <td>計画 14,455 ha</td> <td>実績 14,558 ha</td> <td>進捗率 100.7%</td> </tr> <tr> <td>水源林整備</td> <td>計画 13,400 ha</td> <td>実績 16,435 ha</td> <td>進捗率 122.6%</td> <td>計画 34,059 ha</td> <td>実績 38,288 ha</td> <td>進捗率 112.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【事業費】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">第1期(H19~23)</th> <th colspan="3">第2期(H24~28)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水源林確保</td> <td>計画 839,300 万円</td> <td>実績 819,980 万円</td> <td>執行率 97.7%</td> <td>計画 674,900 万円</td> <td>実績 765,335 万円</td> <td>執行率 113.4%</td> </tr> <tr> <td>水源林整備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>森林塾の実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <th colspan="3">第3期(H29~R3)</th> <th colspan="3">合計</th> </tr> <tr> <td>水源林確保</td> <td>計画 624,400 万円</td> <td>実績 667,361 万円</td> <td>執行率 106.9%</td> <td>計画 2,138,600 万円</td> <td>実績 2,252,676 万円</td> <td>執行率 105.3%</td> </tr> <tr> <td>水源林整備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>森林塾の実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				第1期(H19~23)			第2期(H24~28)			水源林確保	計画 6,215 ha	実績 6,284 ha	進捗率 101.1%	計画 5,540 ha	実績 5,378 ha	進捗率 97.1%	水源林整備	計画 9,592 ha	実績 10,325 ha	進捗率 107.6%	計画 11,067 ha	実績 11,528 ha	進捗率 104.2%		第3期(H29~R3)			合計			水源林確保	計画 2,700 ha	実績 2,896 ha	進捗率 107.3%	計画 14,455 ha	実績 14,558 ha	進捗率 100.7%	水源林整備	計画 13,400 ha	実績 16,435 ha	進捗率 122.6%	計画 34,059 ha	実績 38,288 ha	進捗率 112.4%		第1期(H19~23)			第2期(H24~28)			水源林確保	計画 839,300 万円	実績 819,980 万円	執行率 97.7%	計画 674,900 万円	実績 765,335 万円	執行率 113.4%	水源林整備							森林塾の実施								第3期(H29~R3)			合計			水源林確保	計画 624,400 万円	実績 667,361 万円	執行率 106.9%	計画 2,138,600 万円	実績 2,252,676 万円	執行率 105.3%	水源林整備							森林塾の実施						
	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)																																																																																																	
水源林確保	計画 6,215 ha	実績 6,284 ha	進捗率 101.1%	計画 5,540 ha	実績 5,378 ha	進捗率 97.1%																																																																																															
水源林整備	計画 9,592 ha	実績 10,325 ha	進捗率 107.6%	計画 11,067 ha	実績 11,528 ha	進捗率 104.2%																																																																																															
	第3期(H29~R3)			合計																																																																																																	
水源林確保	計画 2,700 ha	実績 2,896 ha	進捗率 107.3%	計画 14,455 ha	実績 14,558 ha	進捗率 100.7%																																																																																															
水源林整備	計画 13,400 ha	実績 16,435 ha	進捗率 122.6%	計画 34,059 ha	実績 38,288 ha	進捗率 112.4%																																																																																															
	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)																																																																																																	
水源林確保	計画 839,300 万円	実績 819,980 万円	執行率 97.7%	計画 674,900 万円	実績 765,335 万円	執行率 113.4%																																																																																															
水源林整備																																																																																																					
森林塾の実施																																																																																																					
	第3期(H29~R3)			合計																																																																																																	
水源林確保	計画 624,400 万円	実績 667,361 万円	執行率 106.9%	計画 2,138,600 万円	実績 2,252,676 万円	執行率 105.3%																																																																																															
水源林整備																																																																																																					
森林塾の実施																																																																																																					
	<p>【事業実施箇所図】</p>																																																																																																				
	<p>【事業実施状況】 間伐等の森林整備直後の様子と5年後、下草等が回復した状況（相模原市緑区若柳地内）【H19~23】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【整備直後】</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【整備5年後】</p> </div> </div>																																																																																																				
	<p>《評価コメント》 水源の森林づくり事業の推進（水源林の確保・整備）では、第1期より私有林の確保ならびに整備に取り組んでおり、第3期までの実施状況を確認する限り、事業量、事業費ともに順調に進捗しています。また、シカ対策と連携した森林整備を行うことで、下層植生の回復も見られ、モニタリングでも土壌侵食を押さえる効果が確認できています。 今後、県で確保した森林が順次返還されていくが、返還後の森林の管理が課題となると考えられる。</p>																																																																																																				

アウトプット
 <量的指標
 による評価>

事業名	1 水源の森林づくり事業の推進（かながわ森林塾）																																																														
事業のねらい・目的	良質で安定的な水を確保するため、水源の森林エリア内で荒廃が進む私有林の適切な管理、整備を進め、水源かん養など森林の持つ公益的機能の高い「豊かで活力ある森林」を目指す。	事業対象地域	水源の森林エリア																																																												
事業内容	水源の森林づくり事業をはじめとした森林の保全・再生に係る特別対策事業の円滑な推進に必要な不可欠な人材の育成・確保を図るため「かながわ森林塾」を実施する。 森林整備業務従事希望者を対象として、基礎的技術の研修を実施し本格雇用へ誘導するとともに、既就業者を対象として効率的な木材搬出技術研修や森林の管理・経営を担える高度な知識・技術の研修を実施し、技術力の向上を図るなど、様々な技術レベルに応じた担い手育成を体系的に進める。																																																														
	<p>【事業量】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="2">第1期(H19~23)</td> <td colspan="2">第2期(H24~28)</td> </tr> <tr> <td>森林塾の実施</td> <td>計画</td> <td>—人</td> <td>実績</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>進捗率</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">第3期(H29~R3)</td> <td colspan="2">合計</td> </tr> <tr> <td>森林塾の実施</td> <td>計画</td> <td>50人</td> <td>実績</td> <td>46人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>進捗率</td> <td>92.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>計画</td> <td>75人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>実績</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>進捗率</td> <td>76.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>計画</td> <td>125人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>実績</td> <td>103人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>進捗率</td> <td>82.4%</td> </tr> </table>				第1期(H19~23)		第2期(H24~28)		森林塾の実施	計画	—人	実績	33人				進捗率	—		第3期(H29~R3)		合計		森林塾の実施	計画	50人	実績	46人				進捗率	92.0%				計画	75人				実績	57人				進捗率	76.0%				計画	125人				実績	103人				進捗率	82.4%
	第1期(H19~23)		第2期(H24~28)																																																												
森林塾の実施	計画	—人	実績	33人																																																											
			進捗率	—																																																											
	第3期(H29~R3)		合計																																																												
森林塾の実施	計画	50人	実績	46人																																																											
			進捗率	92.0%																																																											
			計画	75人																																																											
			実績	57人																																																											
			進捗率	76.0%																																																											
			計画	125人																																																											
			実績	103人																																																											
			進捗率	82.4%																																																											
	<p>「かながわ森林塾」の研修概要（様々な技術レベルに応じた担い手育成研修を体系的に実施）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修対象者</th> <th>研修コース名、定員・日数</th> <th>研修コースの内容・目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">就業希望者 (就業前)</td> <td>①森林体験コース 54歳以下、35人程度、10日間</td> <td>○森林・林業に関する体験実習、座学 ・就業意識の明確化、就業の見極め</td> </tr> <tr> <td>②演習林実習コース 体験コース修了者15人 実習70日間・集合研修10日間 (合計80日間・6か月)</td> <td>○演習林(水源林等)での現場実習、座学 ・基礎技術の習得・体力の向上</td> </tr> <tr> <td>中堅技術者 (既就職者3年目～)</td> <td>③素材生産技術コース 10人 19日間</td> <td>○間伐材の伐木、造材、搬出技術の現場実習、座学 ・路網整備と機械集材の技術向上</td> </tr> <tr> <td>上級技術者 (既就職者5年目～)</td> <td>④流域森林管理士コース 15人 1～4か月 74日間</td> <td>○森林・林業に関する研修、技能講習 ・森林を総合的にマネジメントできる幅広い知識や高度な技術を身につけた技術者の養成</td> </tr> <tr> <td>造園・土木会社 (新規参入)</td> <td>⑤森林整備基本研修 (森林体験コースに併設) 50人 5日間(+特別3日間)</td> <td>○森林・林業に関する体験実習、座学 ・他業種からの新規参入の促進、森林整備業務の技術水準の確保</td> </tr> </tbody> </table>			研修対象者	研修コース名、定員・日数	研修コースの内容・目的	就業希望者 (就業前)	①森林体験コース 54歳以下、35人程度、10日間	○森林・林業に関する体験実習、座学 ・就業意識の明確化、就業の見極め	②演習林実習コース 体験コース修了者15人 実習70日間・集合研修10日間 (合計80日間・6か月)	○演習林(水源林等)での現場実習、座学 ・基礎技術の習得・体力の向上	中堅技術者 (既就職者3年目～)	③素材生産技術コース 10人 19日間	○間伐材の伐木、造材、搬出技術の現場実習、座学 ・路網整備と機械集材の技術向上	上級技術者 (既就職者5年目～)	④流域森林管理士コース 15人 1～4か月 74日間	○森林・林業に関する研修、技能講習 ・森林を総合的にマネジメントできる幅広い知識や高度な技術を身につけた技術者の養成	造園・土木会社 (新規参入)	⑤森林整備基本研修 (森林体験コースに併設) 50人 5日間(+特別3日間)	○森林・林業に関する体験実習、座学 ・他業種からの新規参入の促進、森林整備業務の技術水準の確保																																											
研修対象者	研修コース名、定員・日数	研修コースの内容・目的																																																													
就業希望者 (就業前)	①森林体験コース 54歳以下、35人程度、10日間	○森林・林業に関する体験実習、座学 ・就業意識の明確化、就業の見極め																																																													
	②演習林実習コース 体験コース修了者15人 実習70日間・集合研修10日間 (合計80日間・6か月)	○演習林(水源林等)での現場実習、座学 ・基礎技術の習得・体力の向上																																																													
中堅技術者 (既就職者3年目～)	③素材生産技術コース 10人 19日間	○間伐材の伐木、造材、搬出技術の現場実習、座学 ・路網整備と機械集材の技術向上																																																													
上級技術者 (既就職者5年目～)	④流域森林管理士コース 15人 1～4か月 74日間	○森林・林業に関する研修、技能講習 ・森林を総合的にマネジメントできる幅広い知識や高度な技術を身につけた技術者の養成																																																													
造園・土木会社 (新規参入)	⑤森林整備基本研修 (森林体験コースに併設) 50人 5日間(+特別3日間)	○森林・林業に関する体験実習、座学 ・他業種からの新規参入の促進、森林整備業務の技術水準の確保																																																													
アウトプット ＜量的指標 による評価＞	<p>演習林実習コース実施状況（新規就業に必要な様々な技術を実習を通じて習得する。）</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>【下刈り実習】</p>  <p>【下刈り】 苗木の周囲を刈り払うため刈払機を扱う技術を習得する</p> </td> <td> <p>【間伐実習】</p>  <p>【間伐】 立ち木をチェーンソーで安全に伐採するための技術を習得する</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>【測量実習】</p>  <p>【測量】 森林の状態を適切に把握するため面積を測量する技術を習得する</p> </td> <td> <p>【丸太柵工実習】</p>  <p>【丸太柵工】 森林内の土壌保全のため丸太による柵工の設置技術を習得する</p> </td> </tr> </table>			<p>【下刈り実習】</p>  <p>【下刈り】 苗木の周囲を刈り払うため刈払機を扱う技術を習得する</p>	<p>【間伐実習】</p>  <p>【間伐】 立ち木をチェーンソーで安全に伐採するための技術を習得する</p>	<p>【測量実習】</p>  <p>【測量】 森林の状態を適切に把握するため面積を測量する技術を習得する</p>	<p>【丸太柵工実習】</p>  <p>【丸太柵工】 森林内の土壌保全のため丸太による柵工の設置技術を習得する</p>																																																								
<p>【下刈り実習】</p>  <p>【下刈り】 苗木の周囲を刈り払うため刈払機を扱う技術を習得する</p>	<p>【間伐実習】</p>  <p>【間伐】 立ち木をチェーンソーで安全に伐採するための技術を習得する</p>																																																														
<p>【測量実習】</p>  <p>【測量】 森林の状態を適切に把握するため面積を測量する技術を習得する</p>	<p>【丸太柵工実習】</p>  <p>【丸太柵工】 森林内の土壌保全のため丸太による柵工の設置技術を習得する</p>																																																														
	<p>《評価コメント》 水源の森林づくり事業の推進（かながわ森林塾の実施）では、第2期より「新規就労者の育成人数」を計画の目標数量に設定しており、概ね順調に事業が実施されていると評価します。また、森林塾事業の実施により新規就労が進むことで、林業従事者が若返りの傾向にあります。加えて、既就業者を対象とした研修の実施により、幅広い知識と高度な資格を取得した中堅、上級技術者も増加することで、今後の森林の保全・再生に係る事業の円滑な推進に期待したい。</p>																																																														

事業名	2 丹沢大山の保全・再生対策		
事業のねらい・目的	丹沢大山を中心に、シカ管理による林床植生の衰退防止や衰退しつつあるブナ林等の再生に取り組むことで、森林土壌の保全や生物多様性の保全などの公益的機能の高い森林づくりを目指す。	事業対象地域	県内水源保全地域

事業内容 中高標高域の林床植生の回復と衰退防止を図るため、水源の森林づくり事業等による森林整備とシカ管理を連携して実施するとともに、これまでの調査研究や技術開発の成果を踏まえ、ブナ林等の再生の取組を実施する。また、登山道の維持補修や山中に埋設しているゴミの収集・撤去、環境配慮型トイレへの転換の支援など県民連携・協働事業を促進する。

【事業量】

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
管理捕獲実施箇所数	計画 ー箇所	実績 ー箇所	進捗率 ー	計画 ー箇所	実績 159箇所	進捗率 ー
土壤保全対策	計画 58.5 ha	実績 79.4 ha	進捗率 135.7%	計画 50.0 ha	実績 70.8 ha	進捗率 141.6%
	第3期(H29~R3)			合計		
管理捕獲実施箇所数	計画 150箇所	実績 176箇所	進捗率 117.3%	計画 150箇所	実績 176箇所	進捗率 117.3%
土壤保全対策	計画 ー箇所	実績 ー箇所	進捗率 ー	計画 108.5 ha	実績 150.2 ha	進捗率 138.4%

【事業費】

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
丹沢大山の保全・再生対策	計画 79,600万円	実績 82,366万円	執行率 103.5%	計画 128,400万円	実績 177,842万円	執行率 138.5%
	第3期(H29~R3)			合計		
	計画 125,200万円	実績 133,282万円	進捗率 106.5%	計画 333,200万円	実績 393,490万円	進捗率 118.1%

※第3期より、土壤保全対策は、土壤保全対策の推進(3番事業)へ移行

【事業実施箇所図】



アウトプット
 <量的指標
 による評価>

【事業実施状況】

シカ管理捕獲等による、下草等が回復した状況(清川村宮ヶ瀬地内(堂平))

【2003年】(シカ密度31頭/km²)



【2015年】(シカ密度6頭/km²)



《評価コメント》

第1期及び第2期計画では「土壌流出防止対策」を、第3期計画では「シカ管理捕獲実施箇所」を目標数量に設定しており、実施状況を確認したところ、計画数量以上の成果を上げていますと評価します。なお、丹沢大山の中高標高域でシカの管理捕獲を継続して行ったことで、丹沢山地におけるシカの生息密度は減少傾向にあり、シカの生息密度が減少した森林においては、林床植生の増加も確認されるなどの成果も出ています。

また、鳥獣法に基づき公的機関では全国初の「鳥獣捕獲等認定事業者」として6名のワイルドライフレンジャーを位置づけ捕獲を実施していますが、このような全国に先駆けて山岳域での捕獲を実施している点も大いに評価できます。

一方でシカの生息範囲は広がっており、シカの管理は引き続きの課題になると考えます。

事業名	3 溪畔林整備事業		
事業のねらい・目的	水源上流の溪流沿いにおいて、土砂流出防止や水質浄化、生物多様性の保全など森林の有する公益的機能が高度に発揮される良好な溪畔林の形成を目指すとともに事業効果の検証と整備技術の確立を図る。	事業対象地域	県内水源保全地域

事業内容 本数調整伐等の森林整備、植生保護柵の設置による植生の回復、丸太柵等の設置による土砂流出防止の対策を講じるとともに、整備した森林等についてモニタリング調査を実施する。

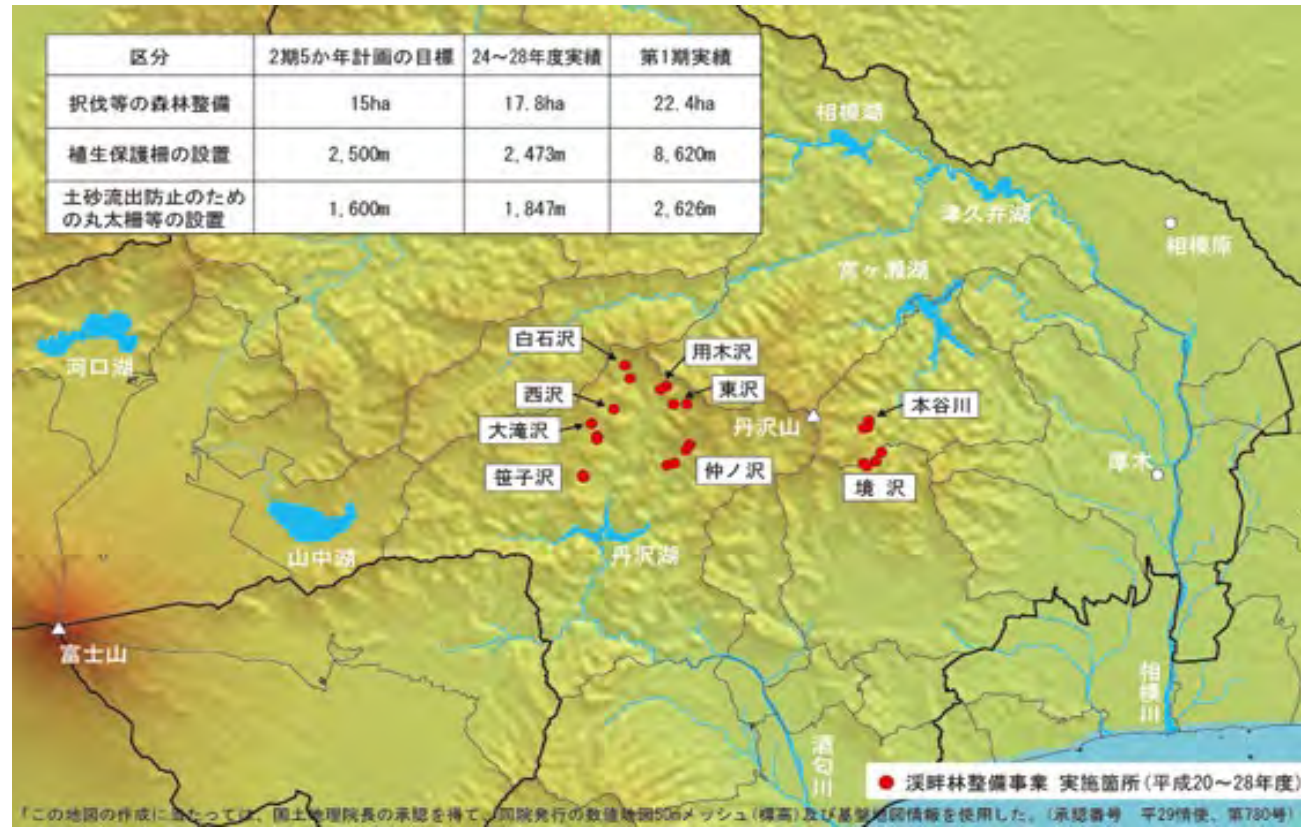
【事業量】

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
森林整備	計画 20.0 ha	実績 22.4 ha	進捗率 112.0%	計画 15.0 ha	実績 17.8 ha	進捗率 118.7%
植生保護柵設置	計画 4,000.0 m	実績 8,620.0 m	進捗率 215.5%	計画 2,500.0 m	実績 2,473.0 m	進捗率 98.9%
丸太柵等の設置	計画 5,000.0 m	実績 2,626.0 m	進捗率 52.5%	計画 1,600.0 m	実績 1,847.0 m	進捗率 115.4%
合計	計画 35.0 ha	実績 40.2 ha	進捗率 114.9%	計画 6,500 m	実績 11,093.0 m	進捗率 170.7%
	計画 6,600 m	実績 4,473.0 m	進捗率 67.8%			

【事業費】

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
溪畔林整備	計画 20,000 万円	実績 17,289 万円	執行率 86.4%	計画 8,000 万円	実績 16,190 万円	執行率 202.4%
合計	計画 28,000 万円	実績 33,479 万円	進捗率 119.6%			

【事業実施箇所図】



アウトプット
＜量的指標
による評価＞

【事業実施状況】

森林整備と植生保護柵の設置による、植生が回復した状況（境沢：清川村煤ヶ谷地内）

【2013】(整備後5年)



【2018年】(整備後10年)



《評価コメント》

第1期計画及び第2期計画の目標数量に対し、本数調整伐等の森林整備においては114.9%、シカの採食を防ぐ植生保護柵の設置においては170.7%と目標を上回る実績になっています。一方、丸太柵等の設置については、67.8%に止まっていますが、これは第1期に実施したモニタリング調査の結果から現地におけるシカの影響が予想以上に高いことが分かったため、工種を丸太柵等から植生保護柵へ変更したことが実績が低い要因となっています。

なお、全国的に未確立な溪畔林整備技術について、試行的な事業実施及びモニタリングを重ねたことで、初期段階の整備技術を概ね確立し、「溪畔林整備の手引き」を作成したことは大いに評価します。今後は、この手引きを参考に水源の森林づくり事業をはじめとする森林整備に活用していただきたい。

平成28年度に実施した事業モニターでは、『今後多様な生物が生息可能な溪畔林整備を望むとともに、「溪畔林整備事業」で機能や特性、科学的根拠が解明され価値を持った「溪畔林」になるよう期待する。』などの意見が出ています。

事業名 3 土壌保全対策の推進

事業のねらい・目的 台風被害等により発生した森林の崩壊地等において、新たに土木的工法も導入し、水源かん養機能の発揮に重要な役割を果たす森林の土壌保全対策の強化を図る。

事業対象地域 県内水源保全地域

事業内容 県内水源保全地域内の崩壊地において、崩壊の拡大や森林土壌の流出を防止するため、土木的工法も取り入れた土壌保全対策を推進する。
また、水源の森林エリア内のシカの採食等による林床植生の衰退に伴い、土壌流出が懸念される森林において、筋工や植生保護柵等を組み合わせた土壌保全対策を推進する。

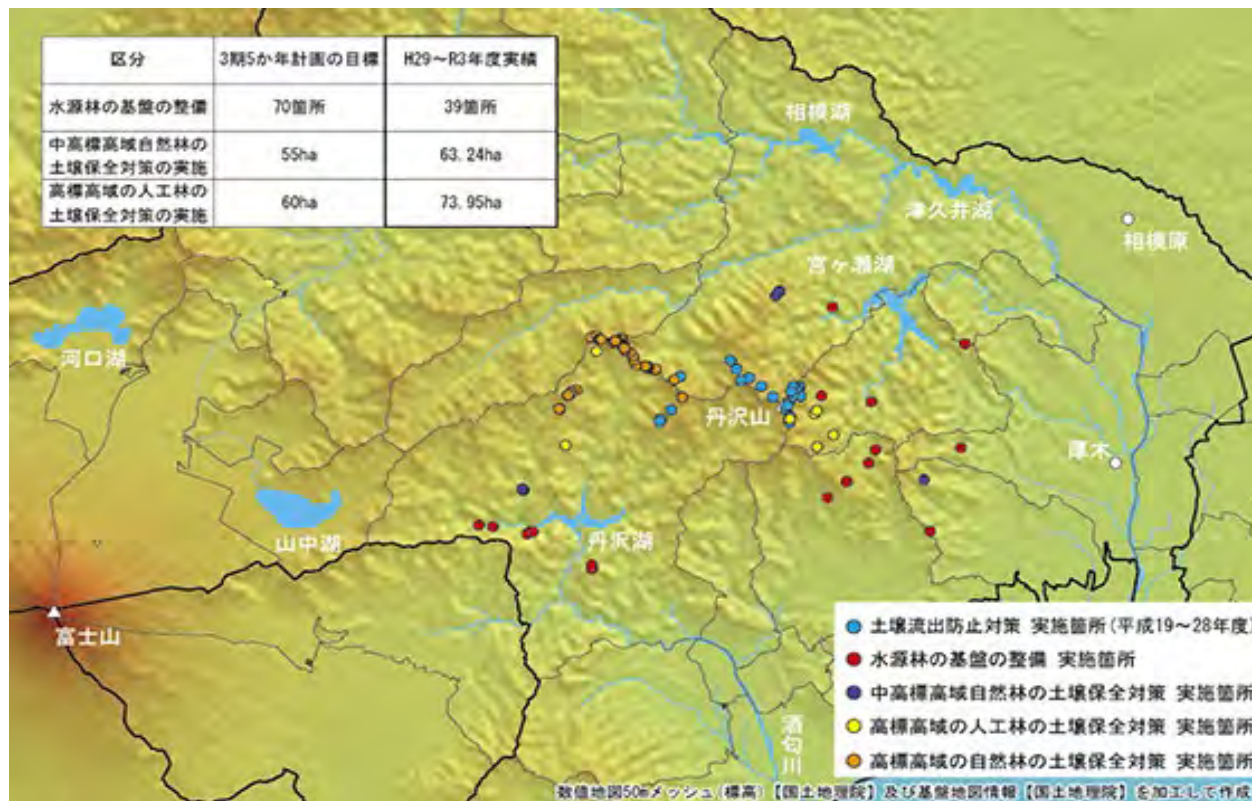
【事業量】

第3期(H29~R3)				合計			
水源林基盤整備	計画 70箇所	実績 39箇所	進捗率 55.7%	計画 70箇所	実績 39箇所	進捗率 55.7%	
中高標高自然林	計画 55ha	実績 63.2ha	進捗率 115.0%	計画 55ha	実績 63.2ha	進捗率 115.0%	
高標高域人工林	計画 60ha	実績 74.0ha	進捗率 123.3%	計画 60ha	実績 74.0ha	進捗率 123.3%	

【事業費】

第3期(H29~R3)				合計			
水源林基盤整備	計画 131,000万円	実績 116,786万円	進捗率 89.1%	計画 131,000万円	実績 116,786万円	進捗率 89.1%	
中高標高自然林							
高標高域人工林							

【事業実施箇所図】



アウトプット
＜量的指標
による評価＞

【事業実施状況】

土壌が流出し荒廃した森林において、土留工や植生保護柵を組み合わせて土壌保全を図った状況（秦野市寺山地区内）【H29】

【整備前】



【整備後】



《評価コメント》

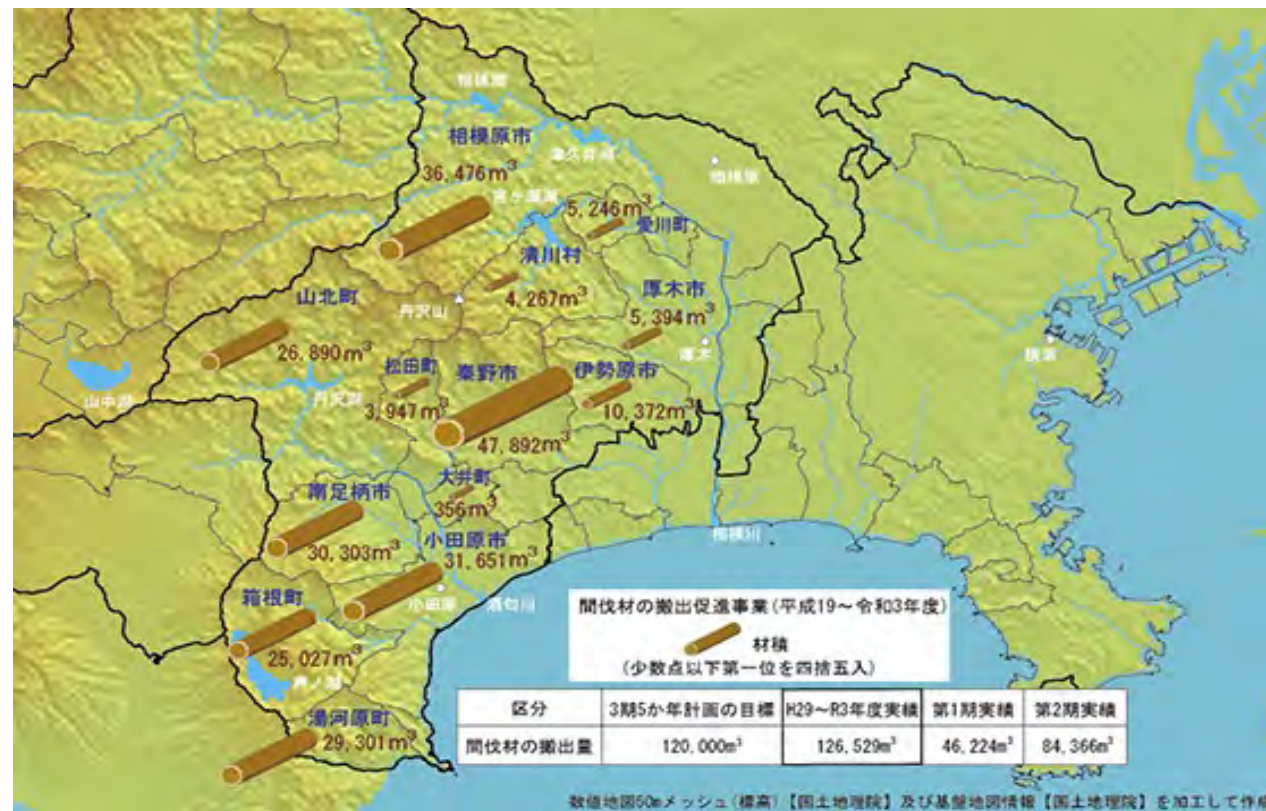
土壌保全対策の推進は第3期計画より位置付けられた事業であり、水源林の基盤整備では、スコリア土壌の流出の著しい水源地域の森林において、土木的工法を用いて土壌保全に取り組んでいます。
第3期までの実施状況では、令和元年東日本台風の影響により、事業量は計画に到達しませんでした。

事業名	4 間伐材の搬出促進		
事業のねらい・目的	民間の力を活用して水源かん養など公益的機能の高い良好な森林づくりを進めるため、間伐材の搬出を促進し、有効活用を図ることにより、森林所有者自らが行う森林整備を促進するとともに、森林循環による持続的・自立的な森林管理の確立を目指す。	事業対象地域	県内水源保全地域

事業内容 森林整備により伐採された間伐材の集材、搬出に要する経費に対し、補助する。
また、森林組合連合会が行う間伐材の仕分けや造材に関する生産指導や生産効率の高い搬出方法の普及定着を図るための生産効率調査・検証、搬出業者と製材工場等の需給調整の経費に対し支援を行う。

【事業量】												
	第1期(H19~23)					第2期(H24~28)						
搬出量	計画	50,000 m ³	実績	46,224 m ³	進捗率	92.4%	計画	107,500 m ³	実績	84,366 m ³	進捗率	78.5%
	第3期(H29~R3)					合計						
搬出量	計画	120,000 m ³	実績	126,529 m ³	進捗率	105.4%	計画	277,500 ha	実績	257,119 ha	進捗率	92.7%
生産指導	計画	50 箇所	実績	56 箇所	進捗率	112.0%						
【事業費】												
	第1期(H19~23)					第2期(H24~28)						
補助額	計画	40,900 万円	実績	50,079 万円	執行率	122.4%	計画	128,500 万円	実績	114,588 万円	執行率	89.2%
	第3期(H29~R3)					合計						
補助額	計画	155,000 万円	実績	60,362 万円	執行率	38.9%	計画	324,400 万円	実績	225,029 万円	執行率	69.4%

【事業実施箇所図】



アウトプット
<量的指標
による評価>

【事業実施状況】

高性能林業機械の導入等により、間伐材の搬出は安全かつ効率的になってきた。

【ハーベスタによる伐倒・枝払い・玉切り】



【フォワーダによる運材・はい積】



《評価コメント》

本事業は、間伐材の搬出量及び生産指導活動の箇所数を計画目標に設定しており、第3期までの実績は事業量、事業費ともに順調に進捗しています。木材生産量は事業開始当初は年間4,000m³未満だったものが、29,000m³以上と大幅に増加しています。

事業名	5 地域水源林整備の支援		
事業のねらい・目的	地域における水源保全を図るため、市町村や森林所有者が行う間伐などの森林整備に対して県が支援し、水源かん養など公益的機能の高い森林づくりを目指す。	事業対象地域	県内水源保全地域 (地域水源林エリア)

事業内容 地域特性を踏まえた市町村の全体整備構想に基づいた地域水源林の整備や森林所有者が自ら実施する間伐などの森林整備の取組に対して支援する。

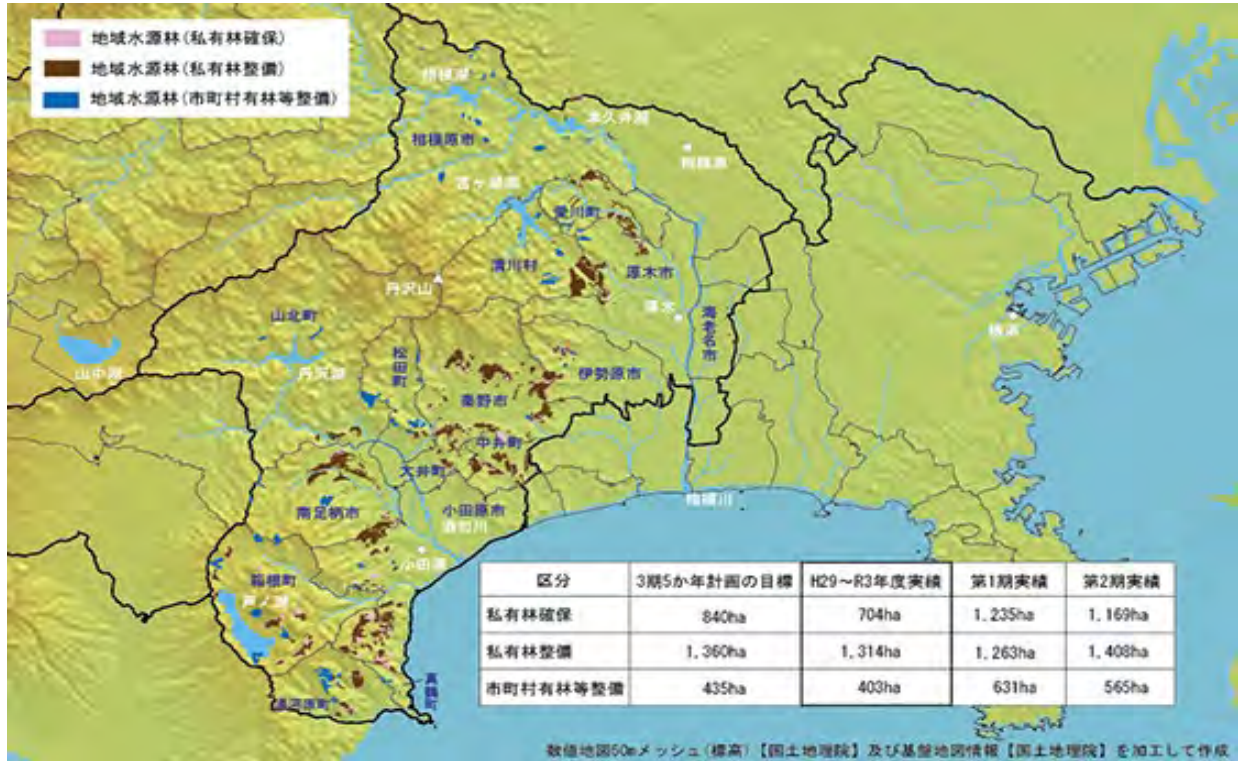
【事業量】

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
私有林確保	計画 1,263 ha	実績 1,235 ha	進捗率 97.8%	計画 1,014 ha	実績 1,168 ha	進捗率 115.2%
私有林整備	計画 1,263 ha	実績 1,263 ha	進捗率 100.0%	計画 1,376 ha	実績 1,408 ha	進捗率 102.3%
市町村有林整備	計画 942 ha	実績 631 ha	進捗率 67.0%	計画 584 ha	実績 565 ha	進捗率 96.7%
高齢級間伐	計画 1,080 ha	実績 408 ha	進捗率 37.8%	計画 500 ha	実績 155 ha	進捗率 31.0%
	第3期(H29~R3)			合計		
私有林確保	計画 840 ha	実績 705 ha	進捗率 83.9%	計画 3,117 ha	実績 3,108 ha	進捗率 99.7%
私有林整備	計画 1,360 ha	実績 283 ha	進捗率 20.8%	計画 3,999 ha	実績 2,954 ha	進捗率 73.9%
市町村有林整備	計画 435 ha	実績 67 ha	進捗率 15.4%	計画 1,961 ha	実績 1,263 ha	進捗率 64.4%
高齢級間伐	計画 100 ha	実績 12 ha	進捗率 12.0%	計画 1,680 ha	実績 575 ha	進捗率 34.2%

【事業費】

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
地域水源林整備	計画 万円	実績 330,200 万円	進捗率 358.4%	計画 万円	実績 346,670 万円	進捗率 112.0%
高齢級間伐	計画 94,900 万円	実績 9,959 万円		計画 314,000 万円	実績 4,928 万円	
計	計画 万円	実績 340,159 万円		計画 万円	実績 351,598 万円	
	第3期(H29~R3)			合計		
地域水源林整備	計画 万円	実績 302,180 万円	進捗率 106.3%	計画 万円	実績 979,050 万円	進捗率 143.3%
高齢級間伐	計画 286,500 万円	実績 2,302 万円		計画 695,400 万円	実績 17,189 万円	
計	計画 万円	実績 304,482 万円		計画 万円	実績 996,239 万円	

【事業実施箇所図】



アウトプット
＜量的指標
による評価＞

【事業実施状況】

間伐等の森林整備前後の様子、下草等が回復した状況（松田町松田庶子地内）【H24~28】

【整備前】



【整備後】



《評価コメント》

第3期までの計画目標数量に対し、市町村が実施する私有林の確保・整備及び市町村有林の整備に関しては概ね順調な実績といえます。一方、高齢級間伐の促進については、35.5%と低調な実績に止まっています。これについては、県が第2期に状況分析を行っており、その結果、所有者の希望により長期施業受委託への移行がみられたことが原因であることが分かりました。

事業名	6 河川・水路における自然浄化対策の推進		
事業のねらい・目的	水源として利用している河川において、自然浄化や水循環の機能等を高め、水源河川としてふさわしい水源水質の維持・向上を目指す。	事業対象地域	相模川水系及び酒匂川水系取水堰の県内集水域
事業内容	市町村管理の河川・水路における生態系の保全を推進し、良好な水源環境を形成するため、市町村が実施する生態系に配慮した河川・水路の整備を支援する。		

【事業量】 ※第2期までは直接浄化対策を実施していたが、第3期から廃止している。

第1期(H19~23)				第2期(H24~28)			
河川・水路整備	計画 7箇所	実績 16箇所	進捗率 228.6%	計画 7箇所	実績 13箇所	進捗率 185.7%	
直接浄化対策	計画 30箇所	実績 9箇所	進捗率 30.0%	計画 7箇所	実績 13箇所	進捗率 185.7%	
第3期(H29~R3)				合計			
河川・水路整備	計画 10箇所	実績 10箇所	進捗率 100.0%	計画 24箇所	実績 39箇所	進捗率 162.5%	
直接浄化対策	計画 1箇所	実績 1箇所	進捗率 100.0%	計画 37箇所	実績 22箇所	進捗率 59.5%	

【事業費】 ※計画額は6番事業全体額を計算しているため、第1期・第2期含めて全体額のみ表記とした。

第1期(H19~23)				第2期(H24~28)			
河川・水路整備	計画 112,200万円	実績 133,610万円	執行率 119.1%	計画 177,100万円	実績 117,535万円	執行率 66.4%	
第3期(H29~R3)				合計			
河川・水路整備	計画 149,000万円	実績 110,000万円	執行率 73.8%	計画 438,300万円	実績 361,145万円	執行率 82.4%	

【事業実施箇所図】



アウトプット
＜量的指標
による評価＞

【事業実施状況】
善明川整備前・整備後の状況（厚木市）



《評価コメント》

本事業は、市町村が実施する河川や水路の整備等へ県が補助する事業となりますが、第1期計画では、河川・水路の整備に関して県が想定した計画量より市町村からの申請が多く、一方、直接浄化対策については県が想定した計画量より市町村の申請が少なかったことから、現在の実績（進捗率）となっています。
整備を実施した箇所では、底生生物の増加が確認された場所もあるなど一定の成果が出てきていると評価します。また、地元の方々の市民活動によりその後の豊かな自然環境が維持されている箇所も出てきていることから、今後も良好な環境を維持していく活動が継続されることが望まれます。

事業名	7 地下水保全対策の推進		
事業のねらい・目的	地下水（伏流水、湧水を含む）を主要な水道水源として利用している地域において、それぞれの地域特性に応じて市町村が主体的に行う地下水かん養や水質保全等の取組を促進し、良質で安定的な地域水源の確保を図る。	事業対象地域	地下水を主要な水道水源としている地域

事業内容 地下水を主要な水道水源としている地域内の市町村が計画的に実施する地下水のかん養対策や汚染対策への支援を行う。

【事業量】

	第1期(H19~23)				第2期(H24~28)			
	計画	市町	実績	市町	計画	市町	実績	市町
保全計画策定	—	—	9	9	—	—	—	—
かん養対策	—	—	6	6	—	—	4	4
汚染対策	—	—	2	2	—	—	2	2
モニタリング	—	—	10	10	—	—	10	10
	第3期(H29~R3)				合計			
保全計画策定	—	—	—	—	—	—	9	9
かん養対策	—	—	2	2	—	—	6	6
汚染対策	—	—	1	1	—	—	2	2
モニタリング	—	—	10	10	—	—	10	10

【事業費】 ※計画額は7番事業全体額を計算しているため、全体額のみ表記とした。

	第1期(H19~23)				第2期(H24~28)			
	計画	市町	実績	市町	計画	市町	実績	市町
地下水保全対策	116,500万円	—	50,540万円	43.4%	32,200万円	—	33,120万円	102.9%
	第3期(H29~R3)				合計			
地下水保全対策	39,600万円	—	42,430万円	107.1%	188,300万円	—	126,090万円	67.0%

【事業実施箇所図】



アウトプット
＜量的指標
による評価＞

【事業実施状況】

○かん養対策：休耕田等に水を張り地下水のかん養を図る。 ○モニタリング：各市町で水位・水質モニタリングを実施。



○汚染対策：有機塩素系化学物質に汚染された地下水を浄化装置に通し、浄化を図る。



《評価コメント》

本事業については、目標数量等の設定はありませんが、事業費については、第2期以降、概ね計画通り執行されていると評価します。また、地下水を主要な水道水源としている地域では、第1期に地下水保全計画を作成後、地下水保全対策を実施しており、現在汚染対策を実施しているのは1市のみとなっていることから取組の成果がでているものと評価します。

事業名	8 生活排水処理施設の整備促進		
事業のねらい・目的	富栄養化の状態にあるダム湖への生活排水（窒素・リン）の流入や相模川水系・酒匂川水系への未処理の生活排水の流入を抑制することにより、県内水源保全地域の生活排水対策を総合的に推進し、水源環境の負荷軽減を図る。	事業対象地域	相模川水系・酒匂川水系取水堰の県内集水域
事業内容	県内ダム集水域における公共下水道及び高度処理型合併処理浄化槽の整備と併せて、相模川水系・酒匂川水系取水堰の県内集水域（ダム集水域を除く。）における合併処理浄化槽の転換促進を図る。このため、県は、これらの取組を行う市町村への支援を行う。		

【事業量】

◆ 公共下水道の整備促進事業（第1期、第2期）

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
下水道普及率	計画 59.0 %	実績 53.4 %	進捗率 70.4 %	計画 86.0 %	実績 60.4 %	進捗率 21.5 %
整備面積	計画 206 ha	実績 144.8 ha	進捗率 - %	計画 208.7 ha	実績 113.9 ha	進捗率 - %

◆ 合併処理浄化槽の整備促進事業（第1期、第2期）

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
整備基数	計画 200 基	実績 368 基	進捗率 184.0 %	計画 1,090 基	実績 473 基	進捗率 43.4 %
	計画 300 基	実績 138 基	進捗率 46.0 %			

※第1期は上段が市町村設置型、下段が個人設置型。

◆ 生活排水処理施設の整備促進事業（第3期）

	第3期(H29~R3)		
県内水源保全地域の生活排水処理率	計画 96.0 %	実績 95.5 %	進捗率 66.7 %
（うちダム集水域）	計画 80.8 %	実績 74.1 %	進捗率 54.4 %

【事業費】

	第1期(H19~23)			第2期(H24~28)		
公共下水道の整備促進事業	計画 427,000 万円	実績 199,830 万円	執行率 46.8 %	計画 137,100 万円	実績 170,230 万円	執行率 124.2 %
合併処理浄化槽の整備促進事業	計画 64,600 万円	実績 97,160 万円	執行率 150.4 %	計画 207,600 万円	実績 102,700 万円	進捗率 49.5 %

	第3期(H29~R3)		
生活排水処理施設の整備促進事業	計画 348,300 万円	実績 348,329 万円	執行率 100.0 %

【事業実施箇所図】



アウトプット
＜量的指標
による評価＞

【事業実施状況】

下水道整備及び浄化槽設置の状況（相模原市及び山北町）【H19~26】

<p>【整備前】</p>	<p>【整備後】</p>	<p>【整備前】</p>	<p>【整備後】</p>
<p>相模原市内 埋設位置が深い場合、地表を掘削することなく地中を貫通する推進工法を採用</p>		<p>山北町内 公衆トイレの単独処理浄化槽を高度処理型合併処理浄化槽(25人槽)に転換</p>	

《評価コメント》

第2期計画までは、公共下水道の整備促進事業及び合併処理浄化槽の整備促進事業として、下水道の普及率及び合併処理浄化槽の整備基数を計画の目標数量として設定してまいりました。第2期の公共下水道の整備に関しては、道路境界の未確定箇所や工事困難箇所が多数あったため、また、合併処理浄化槽の整備に関しては、浄化槽を設置する家庭の個別事情など難しい課題が多くあったことから、進捗率は低調な実績に止まっています。

第3期計画からは第2期までの2事業を統合し、生活排水処理施設の整備促進事業として、県内水源保全地域の生活排水処理率及びダム集水域の生活排水処理率を新たな目標数量に設定してまいりました。第3期までの実績としては、依然として低調な実績にとどまっているため、今後は関係市町と連携し、事業進捗の向上に努めていただく必要があります。

事業名	9 相模川水系上流域対策の推進		
事業のねらい・目的	相模川水系全体の流域環境保全に向け、山梨県との共同事業により、県外上流域における水源環境の保全・再生を図る。	事業対象地域	相模川水系県外上流域

事業内容 荒廃した森林を対象に、間伐や間伐に必要な作業道の整備等を両県が共同事業として実施する。また、生活排水対策として、山梨県にある桂川清流センター（下水処理施設）において、リン削除効果のある凝集剤による排水処理を、両県が共同事業として実施する。

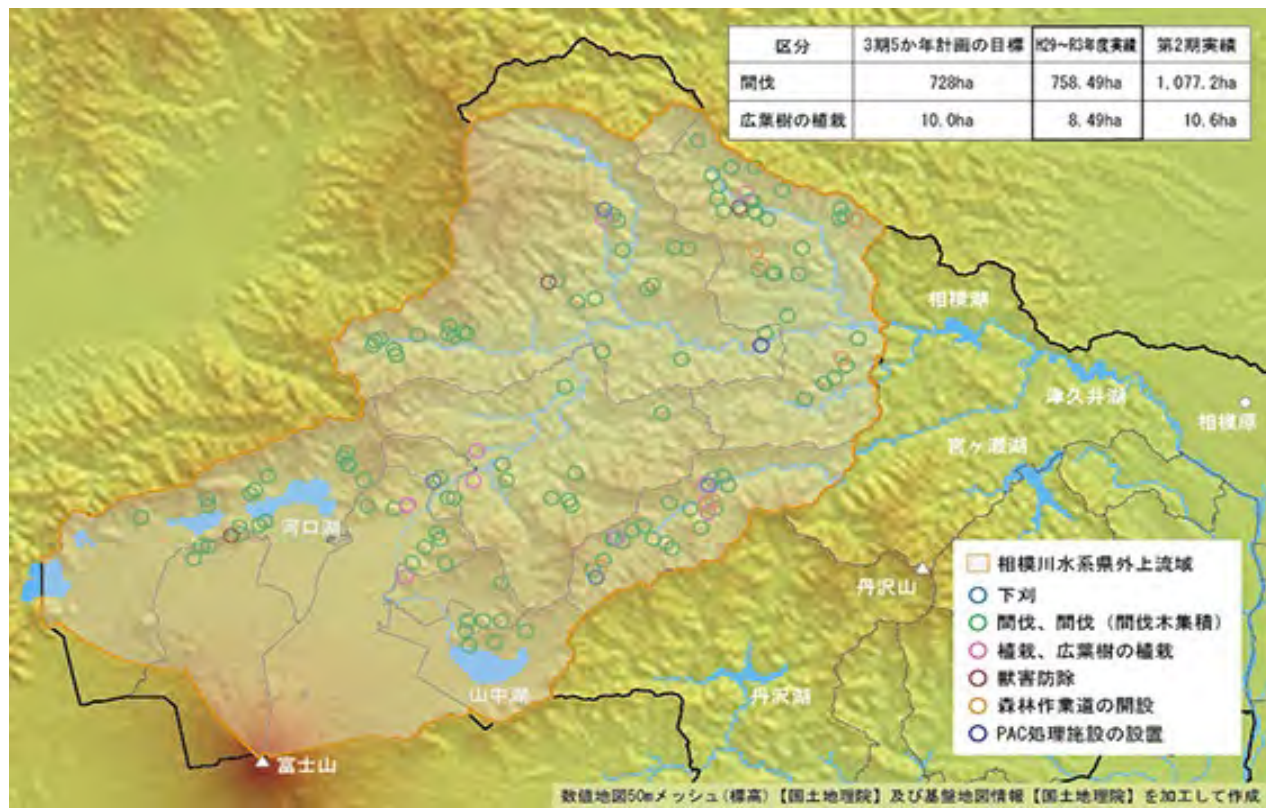
【事業量】 ※第1期は現況調査等を実施

第1期(H19~23)				第2期(H24~28)								
間伐	計画	— ha	実績	— ha	進捗率	—	計画	1,280 ha	実績	1,077 ha	進捗率	84.2%
広葉樹の植栽	計画	— ha	実績	— ha	進捗率	—	計画	10 ha	実績	10.61 ha	進捗率	106.1%
第3期(H29~R3)				合計								
間伐	計画	728 ha	実績	758 ha	進捗率	104.2%	計画	2,008 ha	実績	1,836 ha	進捗率	91.4%
広葉樹の植栽	計画	10 ha	実績	8.49 ha	進捗率	84.9%	計画	20 ha	実績	19.10 ha	進捗率	95.5%

【事業費】

第1期(H19~23)				第2期(H24~28)								
森林整備/生活排水対策	計画	9,800 万円	実績	7,594 万円	執行率	77.5%	計画	36,500 万円	実績	28,144 万円	執行率	77.1%
第3期(H29~R3)				合計								
森林整備/生活排水対策	計画	19,000 万円	実績	17,513 万円	進捗率	92.2%	計画	65,300 万円	実績	53,251 万円	進捗率	81.5%

【事業実施箇所図】



アウトプット
 <量的指標
 による評価>

【事業実施状況】

森林整備後は混み合っていた林内に光が入り、明るくなった。（山梨県大月市七保町浅川西ノ入）【H30】



《評価コメント》

山梨県との共同事業として、第2期より開始された県外上流域における森林整備につきましては、事業量、事業費ともに概ね計画通りに進捗しています。また、桂川清流センターにおける生活排水対策につきましても、平成26年度の設備稼働以降、計画上の目標（放流水の目標全リン濃度を0.6mg/l以内）を年平均で毎年度達成していますので、本事業の所期の成果は得られているものと評価します。

事業名	10 水環境モニタリングの実施					
事業のねらい・目的	「順応的管理」の考え方にに基づき、事業実施と並行して、水環境全般にわたるモニタリング調査を実施し、事業の効果と影響を把握しながら評価と見直しを行うことで、柔軟な施策の推進を図るとともに、施策の効果を県民に分かりやすく示す。		事業対象地域 水源保全地域			
事業内容	水源環境保全・再生施策の実施効果を評価するために必要な時系列データの収集等を行うため、森林のモニタリング調査（対照流域法等による森林の水源かん養機能調査、人工林の現況調査、森林生態系効果把握調査）及び河川のモニタリング調査（動植物等調査、県民参加型調査）を行う。また、酒匂川水系上流域の森林や生活排水施設の現状を把握する。					
アウトプット ＜量的指標 による評価＞	【事業費】					
		第1期(H19~23)	第2期(H24~28)			
	モニタリング調査	計画 84,800万円	実績 87,800万円	計画 85,700万円	実績 97,000万円	執行率 113.2%
		第3期(H29~R3)		合計		
	モニタリング調査	計画 104,000万円	実績 97,151万円	計画 274,500万円	実績 281,951万円	執行率 102.7%
	【事業実施箇所図】					
	【事業実施状況】					
	＜森林のモニタリング調査（対照流域法等調査、人工林の現況調査、森林生態系効果把握調査）＞					
	第1期 (H19~23)	<ul style="list-style-type: none"> ●対照流域法等 平成19年度より学識者等による検討委員会を立ち上げ、モニタリングの内容等について検討を開始した。平成20年度より地形や地質の異なる水源の森林エリア内の4地域にモニタリング施設を整備し、調査を開始した。 ●人工林の現況調査（5年おきに実施） 平成21年度調査では、県内水源保全地域内の国有林を除く全ての人工林について現地調査し、整備状況、光環境、下層植生、土壌状況及び総合評価をAからDまでのランクに区分する方法で実施した。 				
	第2期 (H24~28)	<ul style="list-style-type: none"> ●対照流域法等 4つの試験流域でのモニタリングを継続した。このうち3箇所では、間伐や植生保護柵の設置等を行い、その後の水流出や水質、土砂流出等の変化をモニタリングしている。 ●人工林の現況調査 5年おきの調査のため、平成26年度に調査を実施し、平成27年度に補完調査を行った。県内水源環境保全地域内の国有林を除くすべての人工林について、現地調査や既往の航空レーザ測量データ等を活用し、手入れ度をAからDまでのランクに区分した。 ●森林生態系効果把握 平成24年度に手法検討を行い、平成25年度は予備調査（小仏山地）、平成26年度は本調査（小仏山地、箱根外輪山）を実施した。平成27年度に本調査（丹沢山地）を実施し、平成28年度は、3地区の現地調査結果を踏まえた総合検討を行なった。 				
第3期 (H29~R3)	<ul style="list-style-type: none"> ●対照流域法等 4つの試験流域でのモニタリングを継続し、地域ごとの水土砂流出特性を把握するとともに、間伐や植生保護柵設置等の短期的な効果を検証した。 ●人工林の現況調査（5年おきに実施） 令和元年度及び令和2年度の2か年で調査を実施した。 ●森林生態系効果把握 第2期の初回調査の成果を踏まえて、平成29~令和元年度に2巡目の追跡調査を実施した。 					

<河川のモニタリング調査（動植物等調査、県民参加型調査）>

第1期 (H19~23)	<ul style="list-style-type: none"> ●動植物等調査（5年おきに実施） 平成20年度に相模川水系、平成21年度に酒匂川水系の現地調査を実施し、取水堰上流域の各40地点において、水生生物等の動植物や窒素、SSなどの水質項目について観測した。 ●県民参加型調査 平成19年度は調査計画の策定、調査マニュアル等の作成を行い、平成20年度から水生生物や水質等の調査を開始した。4年間で延べ253名が参加し、70地点で調査を行った。
第2期 (H24~28)	<ul style="list-style-type: none"> ●動植物等調査 平成25年度に相模川水系の40地点、平成26年度に酒匂川水系の40地点の現地調査を実施した。 ●県民参加型調査 毎年、水生生物や水質等の調査を実施し、5年間で延べ391名が参加し、170地点で調査を行った。
第3期 (H29~R3)	<ul style="list-style-type: none"> ●動植物等調査 平成30年度に相模川水系の39地点、令和元年に酒匂川水系の39地点の現地調査を実施した（両水系とも崩落により1地点の調査未実施）。 ●県民参加型調査 毎年、水生生物や水質等の調査を実施し、5年間で延べ395名が参加し、226地点で調査を行った。

<酒匂川水系上流域の現状把握>

第2期 第3期	静岡県から酒匂川上流の森林施業に係るデータの提供を受け、現状把握に努めた。
------------	---------------------------------------

<現地写真>

県内4箇所試験流域において、森林からの水や土砂の流出実態と短期的な整備効果を把握した



小仏山地・丹沢山地・箱根外輪山の各整備地において間伐による生物多様性への影響を把握した



人工林の現況調査及び河川のモニタリング調査の様子



アウトプット
<量的指標
による評価>

<<評価コメント>>

順応的管理の考え方に基づきモニタリング調査を実施し、その結果が施策の評価に活用されることで、より柔軟な施策の運営につながっているものと評価します。

なお、森林の特別対策事業の多くは全国的にも先進的な取り組みであることから、本モニタリング調査の結果が、現場レベルでの対策技術開発に加え、前例のない事業の効果を県民に説明する役割を担っているとも言えます。こうしたモニタリング調査で得られた情報につきましては、広く県民に公表されることが、参加型税制で施策を進める上でも重要であると考えます。

事業名	11 県民参加による水源環境保全・再生のための仕組み																										
事業のねらい・目的	水源環境保全・再生施策について、計画、実施、評価、見直しの各段階に県民意見を反映させ、県民が主体的に事業に参加し、県民の意志を基盤とした施策の展開を図る。	事業対象地域	県全域																								
事業内容	水源環境保全・再生施策に県民意見を反映させるため「水源環境保全・再生かながわ県民会議」の運営等を行う。また、市民団体やNPO等が実施する水源環境保全・再生活動に対し、財政的支援を行う。																										
	【事業費】 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="2">第1期(H19~23)</td> <td colspan="2">第2期(H24~28)</td> </tr> <tr> <td>県民会議の運営等</td> <td>計画 19,200万円</td> <td>実績 10,770万円</td> <td>執行率 56.1%</td> <td>計画 23,000万円</td> <td>実績 20,687万円</td> <td>執行率 89.9%</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">第3期(H29~R3)</td> <td colspan="2">合計</td> </tr> <tr> <td>県民会議の運営等</td> <td>計画 23,000万円</td> <td>実績 10,698万円</td> <td>進捗率 46.5%</td> <td>計画 65,200万円</td> <td>実績 42,155万円</td> <td>進捗率 64.7%</td> </tr> </table>				第1期(H19~23)		第2期(H24~28)		県民会議の運営等	計画 19,200万円	実績 10,770万円	執行率 56.1%	計画 23,000万円	実績 20,687万円	執行率 89.9%		第3期(H29~R3)		合計		県民会議の運営等	計画 23,000万円	実績 10,698万円	進捗率 46.5%	計画 65,200万円	実績 42,155万円	進捗率 64.7%
	第1期(H19~23)		第2期(H24~28)																								
県民会議の運営等	計画 19,200万円	実績 10,770万円	執行率 56.1%	計画 23,000万円	実績 20,687万円	執行率 89.9%																					
	第3期(H29~R3)		合計																								
県民会議の運営等	計画 23,000万円	実績 10,698万円	進捗率 46.5%	計画 65,200万円	実績 42,155万円	進捗率 64.7%																					
	【事業実施状況】 <table border="1"> <tr> <td>会議名等</td> <td>開催実績等</td> </tr> <tr> <td>県民会議</td> <td>53回開催（第1期：19回、第2期：19回、第3期：15回）</td> </tr> <tr> <td>施策調査専門委員会</td> <td>58回開催（第1期：19回、第2期：20回、第3期：19回）</td> </tr> <tr> <td>市民事業専門委員会</td> <td>83回開催（第1期：32回、第2期：29回、第3期：22回）</td> </tr> <tr> <td>県民フォーラム</td> <td>開催回数：45回（第1期：14回、第2期：20回、第3期：11回） 参加者数：13,295名（第1期：2,324名、第2期：6,365名、第3期：4,606名） 意見数：2,227件（第1期：727件、第2期：896件、第3期：604件）</td> </tr> <tr> <td>事業モニター</td> <td>46回開催（第1期：24回、第2期：16回、第3期：6回）</td> </tr> <tr> <td>ニュースレター</td> <td>25回発行（第1期のみ）</td> </tr> <tr> <td>広報資料</td> <td>リーフレットの発行・配布 「森は水のふるさと」の配布 207,160部（第2期：33,619部、第3期：173,541部） 「支えよう！かながわの森と水」の配布 193,046部（第2期：19,676部、第3期：173,370部） 絵本・紙芝居「かながわ しずくちゃんとう森のなかまたち」の作成・配布</td> </tr> <tr> <td>市民事業支援補助金</td> <td>262団体407事業 99,688,000円 （第1期：84団体140事業 31,006,000円 第2期：121団体188事業 49,333,000円 第3期：57団体 79事業 19,349,000円）</td> </tr> </table>			会議名等	開催実績等	県民会議	53回開催（第1期：19回、第2期：19回、第3期：15回）	施策調査専門委員会	58回開催（第1期：19回、第2期：20回、第3期：19回）	市民事業専門委員会	83回開催（第1期：32回、第2期：29回、第3期：22回）	県民フォーラム	開催回数：45回（第1期：14回、第2期：20回、第3期：11回） 参加者数：13,295名（第1期：2,324名、第2期：6,365名、第3期：4,606名） 意見数：2,227件（第1期：727件、第2期：896件、第3期：604件）	事業モニター	46回開催（第1期：24回、第2期：16回、第3期：6回）	ニュースレター	25回発行（第1期のみ）	広報資料	リーフレットの発行・配布 「森は水のふるさと」の配布 207,160部（第2期：33,619部、第3期：173,541部） 「支えよう！かながわの森と水」の配布 193,046部（第2期：19,676部、第3期：173,370部） 絵本・紙芝居「かながわ しずくちゃんとう森のなかまたち」の作成・配布	市民事業支援補助金	262団体407事業 99,688,000円 （第1期：84団体140事業 31,006,000円 第2期：121団体188事業 49,333,000円 第3期：57団体 79事業 19,349,000円）						
会議名等	開催実績等																										
県民会議	53回開催（第1期：19回、第2期：19回、第3期：15回）																										
施策調査専門委員会	58回開催（第1期：19回、第2期：20回、第3期：19回）																										
市民事業専門委員会	83回開催（第1期：32回、第2期：29回、第3期：22回）																										
県民フォーラム	開催回数：45回（第1期：14回、第2期：20回、第3期：11回） 参加者数：13,295名（第1期：2,324名、第2期：6,365名、第3期：4,606名） 意見数：2,227件（第1期：727件、第2期：896件、第3期：604件）																										
事業モニター	46回開催（第1期：24回、第2期：16回、第3期：6回）																										
ニュースレター	25回発行（第1期のみ）																										
広報資料	リーフレットの発行・配布 「森は水のふるさと」の配布 207,160部（第2期：33,619部、第3期：173,541部） 「支えよう！かながわの森と水」の配布 193,046部（第2期：19,676部、第3期：173,370部） 絵本・紙芝居「かながわ しずくちゃんとう森のなかまたち」の作成・配布																										
市民事業支援補助金	262団体407事業 99,688,000円 （第1期：84団体140事業 31,006,000円 第2期：121団体188事業 49,333,000円 第3期：57団体 79事業 19,349,000円）																										
アウトプット ＜量的指標 による評価＞	   <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>「森は水のふるさと」</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>「支えよう！かながわの森と水」</p>  </div> </div>																										
	＜評価コメント＞ 本事業では、平成19年度に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」を設置し、県民参加のもと施策の評価や県民への情報提供、市民事業への支援等を行ってきました。 施策の評価では、各事業の進捗状況やモニタリング調査結果、県民視点での事業モニター結果や県民フォーラム意見等による多面的な評価を行い、施策への県民意見の反映に努めてきました。また、県民への情報提供では、令和3年度までに計53回にわたる県民フォーラムを県内各地で開催するとともに、分かりやすい広報媒体としてリーフレットや絵本・紙芝居の作成に取り組むなど、効果的な情報発信にも努めているといえます。 加えて、市民事業への支援では、水源環境の保全・再生の活動等を行う団体（延べ262団体407事業）に対し、財政的な支援等を行っています。こうした取組を進めたことで、市民活動が一層推進され、水源環境の保全・再生のすそ野の広がりにも寄与しているものと評価します。																										

(6) 施策大綱構成事業実績一覧

1 森林の保全・再生

※は特別対策事業

小柱	構成事業 ※[]は第1期の事業名	実施主体	時点更新 (以下8ページ)		
			H19~23 第1期		
水土保全の基盤整備	<p>■一般造林</p> <p>森林組合等が行う造林事業に対して助成を行うことなどにより、森林資源の確保と森林の公益的機能の増進を図っています。</p>	県	1,069百 造林 38.84ha 除間伐 2,635.22ha 下刈、枝打等	下刈、枝打等	下刈、枝打等
	<p>■治山</p> <p>森林の維持・造成により、水源かん養機能等の向上及び増進を図っています。</p>	県	7,756百万円 公共129箇所 単独220箇所 保安林改良等	5,171百万円 公共97箇所 単独153箇所 保安林改良等	1,552百万円 公共45箇所 単独61箇所 保安林改良等
	<p>■林道整備</p> <p>効率的な林業経営と適切な森林管理を行うための基盤となる林道づくりを行っています。</p>	県	5,550百万円 開設公共15路線 改良公共43路線 安全対策等	4,299百万円 開設公共13路線 改良公共56路線 安全対策等	1,372百万円 開設公共4路線 改良公共22路線 安全対策等
	<p>■砂防</p> <p>砂防施設の整備を行うことにより、県民の生命・財産を守るとともに、土砂流出防止機能の向上を図っています。</p>	県	1,147百万円 堰堤30箇所 付属施設等	668百万円 堰堤31箇所 付属施設等	207百万円 堰堤12箇所 付属施設等
広域的水源林の整備	<p>■水源の森林づくり事業の推進(※)</p> <p>水源の森林エリア内の私有林の公的管理・支援により、水源かん養機能等の公益的機能の高い水源林として整備しています。</p>	県	6,641百万円 無花粉・少花粉 スギ 生産：118千本 出荷：112千本 ※ 水源林の確保・整備実績は、特別対策事業の中で表示	6,419百万円 無花粉・少花粉 スギ	2,196百万円
	<p>■丹沢大山の保全・再生対策(※)</p> <p>自然環境の劣化が継続している丹沢大山地域において、シカ捕獲、土壌流出防止対策、ブナ林等の調査研究や登山道補修などの県民協働事業に取り組んでいます。</p>	県	159百万円 保護柵の設置： 3.8ha 丹沢大山ボランティアネットワーク 加入団体数：31団体	—	—
	<p>■溪畔林整備事業(※)</p> <p>水源上流の溪流沿いにおいて、土砂流出防止や水質浄化、生物多様性保全など森林の有する公益的機能を高度に発揮するための森林整備やモニタリングを実施しています。</p>	県	—	—	—
	<p>■優良林整備事業</p> <p>「かながわ森林基金」の運用益等により、基金で買入れた立木の保育管理及び利用間伐を行っています。</p>	県	67百万円 整備面積： 80.81ha	50百万円 整備面積： 114.66ha	16百万円 整備面積： 11.09ha
	<p>■水源かん養林の整備(相模原市緑区青根地区)</p> <p>奥相模湖上流に位置する水源かん養林を整備しています。</p>	利水者	109百万円 整備面積： 95.59ha	235百万円 整備面積： 74.31ha	138百万円 整備面積： 33.22ha
<p>■自然保護奨励金</p> <p>自然環境を保全するために、指定区域内の山林等の所有者に対して奨励金を交付しています。</p>	県	546百万円 交付面積： 83,609.7ha	95百万円 交付面積： 12,428.2ha	22百万円 交付面積： 3,342.8ha	

2 県民の皆様に支えられて（県民参加の取組）

（1）水源環境保全・再生かながわ県民会議の活動

県民参加の仕組みとして、有識者・関係団体・公
保全・再生かながわ県民会議」を設置し、特定課題
つの作業チームを組織し、活動しています。

**時点更新
（以下12ページ）**

①設置経緯

県民会議	水源環境保全・再生施策について、計画・評価・見直しの各段階に県民意見を反映し、県民が主体的に事業に参加し、県民意見を基盤とした施策展開を図るため、有識者、関係団体、公募委員各10名、計30人の構成で、平成19年4月に県が設置した。
施策調査専門委員会	施策の進捗や効果を把握するための指標・方法、施策の点検・評価及びそれらの県民への情報提供に関することを所掌事項とし、学識経験者を委員として平成19年5月に設置した。
市民事業専門委員会	NPO等が行う事業を支援する仕組みの検討を所掌事項とし、学識経験者を中心に平成19年5月に設置した。
県民フォーラムチーム	水源環境の現状や保全・再生施策の状況を周知するとともに、県民意見を幅広く収集することを目的に、地域選出の公募委員を中心に企画・実施するもので、19年度に設置を決定した。
事業モニターチーム	12の特別対策事業を県民の目線でモニターし、その結果を発信することを目的に、公募委員を中心に企画・実施するもので、19年度に設置を決定した。 森林の保全・再生事業を担当する森チームと、水源の保全・再生事業を担当する水チームの2チームを、公募委員を中心に編成した。
コミュニケーションチーム	施策の実施状況・評価等について、分かりやすく県民へ情報を提供する手法などを検討するため、平成19年8月に公募委員を中心に結成した。

②県民会議の主な議題・活動

平成19年度		
第1回	H19. 5. 16	設置要綱等会議運営方針の決定、2つの専門委員会の設置
第2回	H19. 7. 31	2つの専門委員会と公募委員の関係整理、県民フォーラムの開催決定
第3回	H19. 11. 22	市民事業支援制度の中間報告書を承認、県民会議の全体像議論
	H19. 12. 4	「市民事業支援制度中間報告書」知事へ報告
第4回	H20. 2. 14	市民事業支援制度の最終報告書を承認、県民フォーラム意見取りまとめ、事業モニターチーム設置、ニュースレター発行決定
	H20. 2. 19	「市民事業支援制度最終報告書」知事へ報告
平成20年度		
	H20. 5. 15	「県民フォーラム意見報告書-19年度-」知事へ報告
第5回	H20. 5. 26	市民事業支援制度の開始、各委員会、チームの活動方針・状況
第6回	H20. 9. 11	県民フォーラム意見取りまとめ、次回フォーラム協議、県民フォーラム意見への県の回答
第7回	H20. 11. 27	点検表(仮称)検討状況報告、市民事業等報告書を承認、県HPに関する検証結果報告
	H20. 12. 18	「市民事業等支援制度報告書」及び「県民フォーラム意見報告書-20年度-」知事へ報告
第8回	H21. 3. 27	本点検結果報告書、県民フォーラム意見への県の回答、県HP及び市民事業に関する県の対応状況
平成21年度		
第9回	H21. 5. 29	第2期座長等の選任、県民意見の集約・県民への情報提供